

圖 情 藝 報

2007年度

講 義 計 画

桃山学院大学

講 義 計 画

科 目 名

精神保健学

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|-------|-----|-------|
| | 春学期集中 | 4単位 | 郭 麗 月 |

【講義概要・学習目標】

- 1 精神保健についての基本知識について理解させる。
- 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。
- 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。
- 4 地域精神保健と地域保健について理解させる。
- 5 諸外国における精神保健の概要について理解させる。
- 6 関連法規および施設について理解させる。

【講義計画】

- 1 精神保健についての基礎知識
 - 1) 精神保健の概要
 - 2) 精神保健の意義と課題
- 2 ライフサイクルにおける精神保健
 - 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健
 - 2) 学童期における精神保健
 - 3) 思春期における精神保健
 - 4) 青年期における精神保健
 - 5) 成人期における精神保健
 - 6) 老年期における精神保健
- 3 精神保健における個別課題への取り組み
 - 1) 精神障害者対策
 - 2) 老人性痴呆疾患対策
 - 3) アルコール関連問題対策
 - 4) 薬物乱用防止対策
 - 5) 思春期精神保健対策
 - 6) 地域精神保健対策
 - 7) ターミナルケアと精神保健
- 4 精神保健活動の実際
 - 1) 家庭における精神保健
 - 2) 学校における精神保健
 - 3) 職場における精神保健
 - 4) 地域における精神保健
- 5 地域精神保健と地域保健
 - 1) 地域精神保健施策の概要
 - 2) 地域保健施策の概要
 - 3) 関係法規
 - 4) 関連施策
- 6 諸外国における精神保健

【成績評価の方法】

レポート、定期試験で評価する。

【教科書】

(精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編)
『精神保健福祉士養成セミナー2「精神保健学」
(改定第3版)』(へるぶ出版)

【参考文献】

適時紹介する。

科 目 名

精神保健福祉援助演習

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|-------|
| | 通期 | 4単位 | 栄 セツコ |

【講義概要・学習目標】

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

【講義計画】

- 精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法が学生個人々に身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で事例研究およびロールプレイ等を行う。その際、次の点に留意する。
- 1 実習前においては、少なくとも精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助技術のモデル的な事例を取り上げ、講義の内容を深め、実習の教育効果が上るようにする。
 - 2 演習を通して援助関係の実際及びチーム医療の実践を身につけるようにする。
 - 3 実技指導等
 - (1) 面接実技指導
 - (2) 記録実技指導
 - (3) 集団実技指導
 - (4) 評価・効果測定実技指導
 - 4 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
 - 5 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、試験を総合して評価する。

【教科書】

適宜、プリントを配布する

| 科 目 名 | | | |
|---------------------|------|-----|-------|
| 精神保健福祉援助技術各論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 金 文 美 |

【講義概要・学習目標】

- 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）についてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
- 2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）についてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
- 3 精神障害者ケアマネジメントについてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
- 4 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）についてその概念、及び具体的事例に基づき理解させる。
- 5 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。

【講義計画】

- 1 精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した個別援助技術
 - 2) 個別援助技術の実際と適用分野
 - 3) 個別援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 2 精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した集団援助技術
 - 2) 集団援助技術の実際と適用分野（生活技能訓練を含む）
 - 3) 集団援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）
 - 1) 地域援助技術の概念と基本的性格
 - 2) 地域援助技術の具体的展開
 - (1) ノーマライゼーションの推進と住民参加
 - (2) 社会資源の活用と開発
 - (3) 地域社会における連携と調整機能
 - (4) 家族会、自助グループの支援
 - (5) ボランティア等地域マンパワーの育成と活用
 - (6) 地域援助
 - 3) 具体的事例検討
- 4 精神障害者のケアマネジメント
 - 1) ケアマネジメントの原則
 - (1) ケアマネジメント
 - (2) 適用と対象
 - (3) 人権への配慮
 - 2) ケアマネジメントの意義と留意点
 - (1) ケアマネジメントの意義と留意点
 - (2) 関係機関との連携
 - 3) ケアマネジメントのプロセス
 - (1) 受理面接（インテーク）
 - (2) ニーズの把握とその評価
 - (3) 目標設定と計画的実施
 - (4) 包括的サービスの実現
 - 4) チームアプローチ
 - 5) 具体的事例検討
- 5 精神障害者援助と関連専門職種との連携
 - 1) チーム医療における精神保健福祉士の役割
 - 2) 専門職等の役割と機能
 - 3) チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
 - 4) 協力・連携による包括的保健・医療・福祉サービス

【成績評価の方法】

春学期小テスト、秋学期レポート、出席

【教科書】

『精神保健福祉士養成講座 6 精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版

【備考】

00・01SW生は、精神保健福祉受験資格課程科目（随意）として履修

| 科 目 名 | | | |
|---------------------|------|-----|---------|
| 精神保健福祉援助技術総論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 辻 井 誠 人 |

【講義概要・学習目標】

○精神障害者に対する社会福祉施策とその具体的展開場面である援助活動を体系的に理解する。

○精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職（価値及び倫理、専門技術、専門知識）について理解する。

○精神保健福祉士が専門技術を用いる具体的事例を取り上げ、理論的に検証する。

【講義計画】

- 1 援助技術を用いて取り組む課題
精神障害者とその生活困難について
- 2 精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職
価値及び倫理
専門技術の体系
専門知識
- 3 精神保健福祉士と専門技術の展開過程
各展開過程における原則
具体的実践例による検証

【成績評価の方法】

期末試験の成績を中心に評価する。
レポートの提出を求めた場合はその評価も含める。
出席や授業態度などは期末試験に加算する場合がある。

【教科書】

住友雄資・長崎和則・金子努・辻井誠人編『精神保健福祉実践ハンドブック』日総研出版 2002年

【参考文献】

- 仲村優一監修『ソーシャルワーク倫理ハンドブック』中央法規出版 1999年
- 北島・副田・高橋・渡部編『ソーシャルワーク実践の基礎理論』有斐閣 2002年
- 改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第5巻『精神保健福祉援助技術総論』へるす出版 2005年
- 精神保健福祉士養成講座第5巻『改訂 精神保健福祉援助技術総論』中央法規出版 2007年

その他講義で随時紹介

科 目 名

精神保健福祉援助実習

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|-------|
| 01 | 通期 | 6単位 | 栄 セツコ |

【講義概要・学習目標】

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

【講義計画】

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚学習
- 3 現場体験学習
- 4 見学実習（急性期病棟など）
- 5 専門援助技術実習指導
- 6 リハビリテーション実習指導
- 7 配属実習
- 8 全体総括

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）を条件とする。
実習記録、実習レポート、実習研究報告、実習先評価を総合して評価する。

【教科書】

特になし

【参考文献】

適時紹介する。

【備考】

00・01SW生は、精神保健福祉受験資格課程科目（随意）として履修

科 目 名

精神保健福祉援助実習

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|-------|
| 02 | 通期 | 6単位 | 郭 麗 月 |

【講義概要・学習目標】

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

【講義計画】

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚学習
- 3 現場体験学習
- 4 見学実習（急性期病棟など）
- 5 専門援助技術実習指導
- 6 リハビリテーション実習指導
- 7 配属実習
- 8 全体総括

【成績評価の方法】

全出席（学内・学外）を条件とする。
実習記録、実習レポート実習研究報告、実習先評価を総合して評価する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

適時紹介する。

| 科 目 名 | | | |
|----------------|-------|-----|-------|
| 精神保健福祉論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 栄 セツコ |

【講義概要・学習目標】

- 1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
- 2 精神障害者の人権について理解させる。
- 3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
- 4 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。
- 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。
- 6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。
- 7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。

【講義計画】

- 1 障害者福祉の理念と意義
 - 1) 障害者福祉の理念
 - (1) 障害者福祉の発達
 - (2) ノーマライゼーション
 - (3) リハビリテーション
 - (4) 生活の質 (QOL)
 - (5) 生活支援
 - 2) 障害及び障害者
 - (1) 障害の概念
 - (2) 障害分類 (国際障害分類を含む)
 - (3) 精神障害の特性
 - 3) 障害者福祉の基本施策
 - (1) 障害者基本法
 - (2) 障害者プラン
 - 4) 現代社会と精神障害者
 - (1) 精神障害者の概念
 - (2) 精神障害者と家族
 - (3) 精神障害者と地域社会
 - (4) 精神障害者のノーマライゼーション
- 2 精神障害者の人権
 - 1) 精神障害者の権利擁護
 - 2) 精神医療における権利擁護
 - 3) インフォームドコンセント
 - 4) 地域社会における精神障害者の人権
- 3 精神保健福祉士の理念と意義
 - 1) 精神保健福祉の歴史と理念
 - 2) 精神保健福祉士の意義
 - 3) 精神保健福祉士の対象
 - 4) 精神保健福祉士の専門性と倫理
- 4 精神障害者に対する相談援助活動
 - 1) 精神障害者を取りまく社会的障壁 (バリアー)
 - 2) 精神障害者の主体性の尊重
 - 3) 相談援助活動の方法
 - (1) 医療施設における相談援助活動
 - (2) 社会復帰施設等における相談援助活動
 - (3) 地域社会における相談援助活動
 - 4) 相談援助活動の事例
- 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律
 - 1) 精神保健福祉法の意義と内容
 - 2) 精神保健福祉士の意義と内容
 - 3) 関連法について
- 6 精神保健福祉施策の概要
 - 1) 精神保健福祉に関する行政組織
 - 2) 精神保健福祉に係る公的負担制度 (公費負担医療等)
 - 3) 精神保健福祉施策の課題
 - (1) 精神障害者福祉対策
 - (2) 社会復帰対策
 - 4) 精神保健福祉における社会資源
 - (1) 精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携
 - (2) 社会資源
- 7 精神保健福祉の関連施策
 - 1) 雇用・就業 (障害者雇用促進法等の概要を含む)
 - 2) 所得保障
 - 3) 経済負担の軽減
 - 4) 生活環境の改善

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、試験を総合して評価する。

【教科書】

(精神保健福祉士養成講座編集委員会編)『精神保健福祉論』(中央法規出版社)

科 目 名

生徒指導法

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|-------|
| 01 | 春学期 | 2単位 | 宮 本 進 |

【講義概要・学習目標】

21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。幾つかの地域では紛争中であり日本もそれに関係ではいられない。また、日本経済は低迷中である。生徒達は将来への予測が難しく、目標が見えにくい。特に、将来の進路への漠とした不安の中にある。それが生徒達の種々の問題状況を生む背景ともなっている。生徒指導は教科指導以外の指導のことであり、その内容は学業指導・進路指導・個人的適応指導・社会性指導・余暇指導・健康、安全指導などの領域がある。究極の目的は「自らの生き方を構築する自己指導力の育成」にあると言える。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、進路指導の領域に重点を置きながら各領域について具体的な諸実践を考察し、生徒指導のあり方を研究する。討論等を取り入れた参加型の授業にしたい。

【講義計画】

- ・はじめにー講義計画など
- ・教育の原点と生徒指導
- ・生徒達を取り巻く社会状況と生徒指導
- ・どんな教員に
- ・個人的指導力と組織的指導力と生徒指導
- ・生徒指導の実際と原理・原則
- ・進路指導の実際と原理・原則と生徒指導
- ・まとめとテスト

【成績評価の方法】

出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。

【教科書】

授業ノート・資料などをプリントして配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する

科 目 名

生徒指導法

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|---------|
| 02 | 秋学期 | 2単位 | 辻 川 信 孝 |

【講義概要・学習目標】

今、学校は様々な問題を抱えている。いじめ、不登校、学級崩壊、校内暴力、高校中退など生徒指導上の問題が多発し、学校教育のあり方が問われている。一方、新しい教育のあり方が議論され、個性重視、生きる力の育成等、生徒指導の新しい課題も指摘され、教育改革の取り組みがすでに始まっている。このような状況の中で、教育実践者に、これら生徒指導上の問題の本質をとらえる目と個々の子どもに必要な援助方法を身につけることが求められている。本授業では、学校現場の事例を中心に、参加型の授業を進めて行きたい。事例から、問題の本質を見つけ、自分なりの考えをまとめ、グループワークにより問題解決に向けての考え方(法則性)を習得してもらいたい。併せて、数多くの事例に接することにより、適切な対応(生徒指導の技術)と子どもたちに接する姿勢(生徒指導の心)を学びとって欲しい。

【講義計画】

1. 生徒指導とは
 - (1) 授業計画と進め方・子どもたちの状況と生徒指導のあり方
 2. 事例研究(学校現場の実践から学ぶ)
 - (1) 校則・生徒心得
 - (2) いじめ
 - (3) 不登校
 - (4) 授業妨害・学級崩壊
 - (5) 校内暴力
 - (6) 性に関する問題行動
3. 求められる生徒指導
 - (1) 子どもたちへの関わり方
 - (2) 楽しい授業づくり
 - (3) 生き方としての進路指導(職場体験学習)
 - (4) 学級経営に生かせるカウンセリングの演習
 - (5) 地域と一体の子育て支援活動
4. まとめ

【成績評価の方法】

出席状況・授業中の発表・期末の最終レポートの結果を総合的に評価して行う。ただし、2/3以上の出席がなければ評価しない。

【教科書】

毎時間、プリントを配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

| 科 目 名 | | | |
|------------|------|-----|---------|
| 税法Ⅰ | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 2単位 | 木 村 吉 孝 |

【講義概要・学習目標】

税法とは租税に関する法のことであるが、わが国では『税法』という名称の法典があるわけではない。所得税法や法人税法など多数の法律とそれを施行する施行法や省令から税法は成り立っている。私たち納税者は、これら税法の定めるところにしたがって国や地方公共団体に租税を納めることになるため、税法の内容は私たちの生活に密接に関係している。そこで、税法全般における基礎理論や通則等についてよく理解し、また主要な税目についての納税義務の成立・確定・履行に関する基本的な知識を習得することは、今日の経済社会における私たちの重要な課題といえる。

『税法Ⅰ』では、まず税法の基礎理論として、税法の体系や基本原則、解釈・適用について概説した上で、所得税に焦点をあててその課税要件や税額の計算構造について学習する。

受講生は、税法の基礎理論と所得税の仕組みや問題点について理解することが期待される。

【講義計画】

1. 租税の意義と種類
2. 税法の意義と体系
3. 税法の基本原則
4. 税法の解釈と適用
5. 課税要件総論
6. 所得税の意義と類型
7. 所得税の課税要件
8. 各種所得の意義と範囲
9. 総合課税と分離課税
10. 損益通算
11. 所得控除
12. 所得税額の計算
13. 所得税の申告と納付
14. 源泉徴収と年末調整

【成績評価の方法】

出席状況（レポート）と期末試験の成績により評価する。

【教科書】

清永敬次『税法（第六版）』（ミネルバ書房）

【参考文献】

金子宏・清永敬次・宮谷俊胤・畠山武道『税法入門（第5版）』（有斐閣新書）

金子宏『租税法（第十一版）』（弘文堂）。

| 科 目 名 | | | |
|------------|------|-----|---------|
| 税法Ⅱ | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期 | 2単位 | 木 村 吉 孝 |

【講義概要・学習目標】

税法は多数の法律とそれを施行する施行法や省令から成り立っている。税法は複雑・難解といわれるが、その内容は私たちの生活に密接に関係しているため、税法の基礎理論や通則等をよく理解し、主要な税目の仕組みや問題点を理解することは私たちの重要な課題である。

「税法Ⅰ」では、税法の基礎理論と所得税の課税要件を中心に学習したが、「税法Ⅱ」では、税法全般に共通する通則や手続きについて概説した上で、相続税に焦点をあててその課税要件や税額計算の仕組みについて講義する。

受講生は、税法に関する基礎知識と相続税の仕組みや問題点について理解することが期待される。

【講義計画】

1. 納税義務の成立・承継・消滅
2. 納税義務の確定
3. 租税の納付と徴収
4. 納税者の権利救済
5. 租税犯とその処罰
6. 相続税の意義
7. 相続に関する民法の規定
8. 相続税の課税要件
9. 相続税額の計算
10. 相続財産の評価
11. 贈与税と相続時精算課税制度
12. 相続税の申告と納税

【成績評価の方法】

出席状況（レポート）と期末試験の成績により評価する。

【教科書】

清永敬次『税法（第六版）』（ミネルバ書房）

【参考文献】

金子宏・清永敬次・宮谷俊胤・畠山武道『税法入門（第5版）』（有斐閣新書）

金子宏『租税法（第十一版）』（弘文堂）。

【備考】

税法Ⅰの履修済が望ましい。

| 科 目 名 | | | |
|-------------|-------|-----|---------|
| 税務会計 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 金 光 明 雄 |

【講義概要・学習目標】

税務会計は、企業（個人企業と法人企業の両方を含む）の活動内容を記録し、それに基づいて企業の課税所得金額と税額を計算して、その結果を報告する過程です。税務会計によって生み出される情報は、申告納税制度のもとでは、まず税務当局に対して報告されます。さらに合理的な租税負担を可能にする有効なタックス・プランニングのための情報として企業の経営者に対しても報告されます。最近では特に後者に関して、できるだけ納税額を節約（「脱税」とは違う）して税引後キャッシュ・フローを増やすことが、企業価値最大化の観点から注目されており、税務会計の果たす役割はますます重要なものとなってきています。

この講義では、主に法人企業を対象にして、税務当局や経営者に対して報告される課税所得金額や税額の計算の仕組みとルールを、財務会計との相違点にも触れながら解説します。そして最終的には、税務会計の基本的な枠組みが理解できるようになることを目指します。

【講義計画】

以下のような授業計画にそって、講義を進めていく予定です。この講義では、理解を深めるために計算問題による演習を行います。その結果は平常点として成績評価に加味します。

1. 法人所得課税制度の概要
2. 課税所得計算の構造
3. 益金計算・損金計算の原則と特例
4. 益金の計算
5. 損金の計算
6. 税額の計算
7. 企業組織再編税制
8. 連結納税制度

【成績評価の方法】

原則として期末試験（100点満点）の結果で評価します。ただし平常点がある場合には、期末試験の結果に平常点（50点満点）を加味して評価します。

【教科書】

下村英紀『基本テキスト・シリーズ 法人税法（改訂版）』同文館出版、2006年。

【参考文献】

岡村忠生『法人税法講義』成文堂、2006年。
中田信正『税務会計要論（14訂版）』同文館出版、2006年。
その他の参考文献については、必要に応じて授業の中で指示します。

【備考】

この講義の具体的な進め方や成績評価の方法については初回の講義で説明しますので、受講希望者は必ず初回の講義に出席してください。

| 科 目 名 | | | |
|--------------|-------|-----|---------|
| 西洋経済史 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 前 田 治 郎 |

【講義概要・学習目標】

18世紀後半のイギリスに始まる産業革命は、人類史的観点からしても、巨大なインパクトをもった。それ以後、資本主義という経済システムが確立・発展し、その下で、人間の生産力は加速度を加えながら飛躍し今日に至る。とはいえ、この過程は常に平坦な道のりであったわけではない。すなわち、一方で、経済成長が順調に進展する時期と成長が鈍化し様々な対立が生じる時期が交替したし、また他方では、資本主義の世界的展開過程において、戦争に象徴されるような諸国民国家間の対立も伴わざるを得なかった。本講義では、イギリス産業革命から第一次大戦までを対象時期として、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカにおける各国資本主義の確立・展開過程を縦軸に、各国資本主義の関係の緊密化＝資本主義の世界体制の形成過程を横軸にとり、いわゆるパクス・ブリタニカの歴史的発展を考えたい。

【講義計画】

1. イギリス産業革命と各国の対応
2. イギリス資本主義の再編成
3. パクス・ブリタニカの生成と発展
4. 大不況期と独占資本主義

【成績評価の方法】

秋学期末試験と授業中に行う小テスト。小テストは、理解度を測る意味でも、頻繁に行う。

【参考文献】

藤瀬浩司（著）『資本主義世界の成立』（ミネルヴァ書房）

【備考】

<02～07生>
共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目

| 科 目 名 | | | |
|-------------|------|-----|---------|
| 西洋古典語－ギリシア語 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 岩 男 久仁子 |

【講義概要・学習目標】

ここで学ぶギリシア語は古典ギリシア語である。西洋文化の基礎であるギリシア文化を知るために必要であって、新約聖書のギリシア語なども読むことができるようになるはずである。この授業では、その基礎を学ぶ。

【講義計画】

テキストに従い、文法基礎を重点的に進めていく。
丁寧に学習していく。

【成績評価の方法】

毎回の出席、練習問題の準備（予習）等を考慮し、学期末に行うテストで評価する。

【教科書】

田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門－改訂版－』岩波全書

| 科 目 名 | | | |
|------------|-------|-----|-----------------------------|
| 西洋古典語－ラテン語 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | ゴンザレス ダリオ González Darío |

【講義概要・学習目標】

（学習目標）ラテン語の基礎的な知識の習得を目指す。
（講義概要）ヨーロッパの共通語的存在であったラテン語は、2千年余りの歳月により、今やフランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ルーマニア語、等に変身しているが、西洋文明や文化の歴史の謎を解くための鍵になる言語である。又、英語の辞書を開けば、多くの語彙がラテン語から影響していることを知り、母なる言語の由縁が自然に理解できる。

講義は、ラテン語の基礎的な文法の理解と、現代ヨーロッパの諸言語の共通点を知るためにラテン語の歴史の概要についても触れる。又、ラテン語に出来るだけ親しんでもらう為に視聴覚教材を活用するつもりである。

授業には、ラテン語の小事典を携帯する。

【講義計画】

（前期）

1. ラテン語の起源と歴史
2. 発音と読み方
3. 基礎的な文法事項

（後期）

1. ラテン語からの派生語
スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語 等
2. 身近なラテン語
音楽と雑誌
3. 簡単な日常会話

【成績評価の方法】

出席日数、レポートの総合評価とする。

【教科書】

プリント

【参考文献】

松本悦治（著）『ラテン語入門』（駿河台出版社）

科 目 名

西洋文化史

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|-------|-----|---------|
| | 秋学期集中 | 4単位 | 岩 津 洋 二 |

【講義概要・学習目標】

今日のヨーロッパはEU(欧州連合)として統合が進みつつある。各国人意識を越えた「ヨーロッパ人」意識をもつ人々も増えているが、他方では自民族の文化的伝統の独自性をまもろうとする運動も高まりを見せている。この講義は、おおきく変貌しようとしているヨーロッパを全体的にとらえ、ヨーロッパ文化の現在を理解するための枠組みを提示することを目的とする。

したがって、建築や美術といった特定の文化的な領域の歴史をたどるような講義ではない。多くの日本人にとって憧れの的であったヨーロッパの、一般にはあまり注目されてこなかった側面に焦点を当てながら、その文化的特質について考察する。ヨーロッパの過去・現在・未来を見通す視座を提供するような講義にしたいと考えている。

【講義計画】

- I. 西洋文化史の課題と射程
- II. 西洋文化の伝統と近代
- III. 西洋の統一性と多様性
- IV. 西洋の自己規定
- V. EUのもとでのヨーロッパ
(第1回目の講義で、より詳細な講義計画を示す)

【成績評価の方法】

講義への参加度・提出物・テストによる総合的評価

【参考文献】

授業中に適宜指示する

【備考】

<02~06生>
共通自由科目として、LE・LI生対象外
LE・LI生は学科教育科目

科 目 名

世界経済事情

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|-------|-----|----------------------------|
| | 春学期集中 | 4単位 | モグヘル ザファル Moghbel Zafar |

【講義概要・学習目標】

世界経済の仕組と今日的トピックスについて分かりやすく解説することがこの講義の基本的な趣旨である。受講生は、新聞の国際経済記事を興味をもって読み、自分なりの理解とオピニオンを持てるようになればこの講義の目的が果たされたと考える。

今日の世界経済では、もはや「対岸の火事」と悠長なことは言っていられない。すべての経済現象が同時進行でグローバルに展開し、国境を無視する形でボーダレスに迫って来る。「GLOBAL」と「LOCAL」の垣根が益々ぼやけて行く中で、世界の経済状況に関する確かな情報と理解が問われていることは言うまでもない。このような見地に立って、この講義では世界経済に関係したトピックスを取り上げて、日本国内の問題に関連づけながら説明する。主に、下のテーマの中からタイムリーなトピックスを選んで講義を進める。ただし、「世界経済入門」以降のテーマについては順不同とする。

【講義計画】

1. 世界経済入門
 - 先進国・中進国・途上国とその他の分類の根拠の意義
 - 世界経済のルールとその起源
 - GATT・WTO体制と世界貿易
 - IMFと国際金融制度
 - 国際収支の仕組と、日本の国際収支の動向
2. 経済グローバル化の光と陰
3. 地域主義と日本の対応：日本型FTAを巡って
4. 開発途上国の実態と戦略
5. ODAは世界を貧困から救えるか
6. 通貨危機の脅威
7. 石油とその他の一次産品を巡る問題
8. 各国経済事情

【成績評価の方法】

期末試験の結果を主とするが、講義中に課す数回のコメント提出をも参考とする。

【教科書】

宮崎勇、丸茂明則(編)「世界経済読本」(東洋経済新報社)

テキスト以外に授業中に資料を頻繁に配布するので、配布資料の責任ある管理を各人に期待する。

【備考】

<02~07生>
共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目

| 科 目 名 | | | |
|-------------------|------|-----|-------|
| 世界市民—環境と経済について考える | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期 | 2単位 | 藤 田 香 |

【講義概要・学習目標】

この講義では「環境保全のための公共政策」をテーマとし、まずまず結びつきが強まる「環境」と「経済」との関係と、それに関連する諸制度についての解説を行います。

具体的には、まず地球環境問題などの概説を行い、対象とする環境問題に対する理解を深めることから始めます。その後、環境問題の現状や公共政策の実施状況など、「環境」と「経済」とのかかわりについて講義を進めます。

適宜、講義で取り扱うテーマに関する受講生間の討論や映像等の紹介を行う予定です。

本講義を通じて、環境問題について考えるきっかけや、身近な問題から世界全体が取り組むべき環境問題について、世界市民の一人として、どのように考え、どのように行動するのかを考える一助となりましたら幸いです。

【講義計画】

1. ガイダンス
2. 地球環境問題
3. 地球温暖化問題への対応
4. 廃棄物問題への対応
5. 水問題への対応
6. 環境保全のための公共政策のあり方

【成績評価の方法】

出席、レポート、期末試験等により、総合的に評価する予定です。受講生の人数により、評価方法を若干変更する場合があります。

【教科書】

なし。

【参考文献】

環境経済・政策学会編、佐和隆光監修『環境経済・政策学の基礎知識』、2006年、有斐閣ブックス。(ISBN 4-641-18333-3、本体3200円)

またこのほかにも講義中に、適宜紹介する予定です。

| 科 目 名 | | | |
|--------------|------|-----|---------|
| 世界市民—医と倫理と人権 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 2単位 | 永 水 裕 子 |

【講義概要・学習目標】

医療技術の発達により、以前は考えることも出来なかった治療による治癒が可能になった反面、例えば遷延性植物状態患者を長期間生かし続けることが果たして倫理的に妥当なのかというような倫理・人権にかかわる問題が出てくるに至った。この講義では、人が生まれてくる前から死ぬまでに直面するであろう問題について取り上げ、各場面において問題となる人権について考えていく。

【講義計画】

- ・インフォームド・コンセント
- ・安楽死、尊厳死、自殺補助など終末期医療をめぐる問題
- ・脳死と臓器移植、生体間臓器移植をめぐる問題
- ・再生医療（中絶胎児の利用、クローン技術、胚性幹細胞）
- ・生殖補助医療をめぐる問題
- ・子どもの医療（重症新生児の治療拒否問題を含む）
- ・薬害と薬事行政

【成績評価の方法】

期末試験による

【教科書】

甲斐克則編『ブリッジブック（講義）医事法』（信山社、2007春出版予定）

※テキストは連休明けに出版される予定なので、それまでは教科書を使用せずレジュメで対応する。

【参考文献】

講義の際に紹介する。

科 目 名

世界市民－環境問題へのアプローチ

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|-------|
| | 春学期 | 2単位 | 藤 田 香 |

【講義概要・学習目標】

現在、環境問題はそれ自体が問題であるということだけでなく、社会経済活動のさまざまな面において影響を与えている。日々の暮らしの中から企業経営に至るまで、環境問題をどのように考えどのように対処するかについて考えることなくして、私たちの社会が持続的に発展することは考えられません。

この講義は、担当者のほか、本学の専任教員等が各々の専門分野から環境問題に関わる部分を中心に講義を行います。様々な角度から環境問題についての基本的な知識を学ぶことによって、今後さらに深く環境問題を考えるきっかけになることを期待いたします。これと同時に、世界全体が取り組むべき環境問題について、世界市民の一人としてどう行動するのかを考える一助になれば幸いです。

【講義計画】

1. 環境問題の概要と特徴
2. 都市の発展と公害問題
3. 地球温暖化問題と環境税
4. 生態系と生物多様性の保全
5. 廃棄物問題とリサイクル
6. 環境問題と企業経営

【成績評価の方法】

学期末試験およびレポート提出により評価する予定です。詳細は、初回に説明する予定です。

【参考文献】

適宜、指示ないし紹介いたします。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名

世界市民－キリスト教 I

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|---------|
| | 秋学期 | 2単位 | 滝 澤 武 人 |

【講義概要・学習目標】

本学の「建学の精神」である「キリスト教」の立場から「世界市民」に光をあてることがこの講義の目標です。桃山学院のモットー「我に従え」の「我」とは、もちろん「イエス・キリスト」のことです。したがって、一人の人間として生きていたイエスの歴史的な姿を明らかにすることが中心的な課題となります。

どれがほんとうのイエスの言葉なのか、どのような状況の中で誰に向かってどんなニュアンスで語りかけられたものなのかを慎重に判断しなければなりません。イエスは最下層・最底辺の人間たちと共に生き、彼らの自由と愛のために闘い、十字架刑で処刑された人間です。

しかしながら、そのようなイエスの生き方は、「キリスト教」の枠をはるかに越えた普遍性と世界市民性を獲得しています。イエスの精神は、アッシジのフランシスコ、ザビエル、マザー・テレサらに受け継がれ、現代においても人権・福祉・ボランティア・教育などの問題に関心を有する世界中の多くの人々に、大きな感動と希望を与えつづけています。

なじみ難い科目かもしれませんが、真面目な学生諸君の熱心でねばり強い受講を期待しています。なお、「信仰」の有無はまったく関係ありません。

【講義計画】

全体的には、私の著書『イエスの現場～苦しみの共有』の内容にそって講義します。

【成績評価の方法】

試験（80点）・レポート（20点）の予定。第1回目の授業時間に説明しますので、必ず出席してください。

【教科書】

新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会）
福音書のテキストを自分自身でしっかりと「読む」ことが中心的課題ですので、毎時間必ず自分の聖書を持参することが必要です。

【参考文献】

滝澤武人『イエスの現場～苦しみの共有』（世界思想社）

| 科 目 名 | | | |
|--------------------|------|-----|---------|
| 世界市民－キリスト教芸術（教会音楽） | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 春学期 | 2単位 | 伊 藤 高 章 |

【講義概要・学習目標】

音楽は、拍の速さ・強弱・音程・フレーズ・音色などを通して、無限に広がる時間に秩序を与える芸術である。そのパターンは文化として類型化することができるが、表現可能性は無限である。個々の演奏は、時間と空間を共有する者の中に起こる再現不可能な一度きりの出来事である。音楽は時間の芸術である。西洋音楽は、この芸術表現パターンの一つである。

本講義は、西洋音楽の源流をなすキリスト教教会音楽について学ぶ。歴史的・理論的に学ぶと同時に、実際の音楽を体験することを重視する。特に教会音楽は、演奏会のためにあるのではなく、メロディーを伴う祈りとして発展した。その側面を体験するため、受講生が共に「歌う」機会を可能な限り多く持つ。

信仰共同体の営みの中で発達した教会音楽は、キリスト教信仰を表現する内容が大半であるが、本講義は学的な目的のものであり、キリスト教信仰の布教を意図しないことは当然である。

楽譜が読めることは、受講に際して必要条件ではない。ただし、「歌う」機会が多くあることを理解して受講するように。

【講義計画】

授業は、大学チャペル（聖教主礼拝堂）で行う。原則として毎時間、担当教員に加えて、大学オルガニスト松原晴美氏が授業補助に当たる。

導入として、1960年代前半の第二ヴァチカン公会議後、カトリック教会典礼音楽運動の中から生まれた、テゼ共同体の音楽とその流れを汲む現代礼拝を学ぶ。印象深く短いフレーズの繰り返し及びその展開からなる音楽をとおり、教会音楽の一つの典型にふれる。

次いで、グレゴリオ聖歌、中世ルネッサンスミサ曲、古典期以降の宗教音楽、ゴスペル等に言及する。

後半は、英国教会のAnthemの伝統にふれ、何曲かをクラスのレパートリーにできることを目指す。

受講生全体での曲への取り組みに加えて、小グループでのアンサンブルを作ることも可能。

水曜3限目のこの授業直前、昼休みに行われるチャペル礼拝では、教会音楽のコンテキストである礼拝が学習できる。参加（見学）を勧める。授業後半には、希望する受講生グループにはこの礼拝での演奏の機会も提供できる予定。

【成績評価の方法】

10回以上の出席を、評価の条件とする。

「アンサンブルでの演奏」「ペーパー試験」どちらかの評価方法を選択できる。

【教科書】

初回授業で指示する。

【参考文献】

授業の進行に応じて、その都度指示する。

【備考】

チャペルを使用するため、受講制限を行う。春学期に登録できるのは第1年次生と第4年次生以上のみ（第2年次生と第3年次生は秋学期に登録可能）。各学期とも定員は180名。再募集は行わない

| 科 目 名 | | | |
|--------------------|------|-----|---------|
| 世界市民－キリスト教芸術（教会音楽） | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 秋学期 | 2単位 | 伊 藤 高 章 |

【講義概要・学習目標】

音楽は、拍の速さ・強弱・音程・フレーズ・音色などを通して、無限に広がる時間に秩序を与える芸術である。そのパターンは文化として類型化することができるが、表現可能性は無限である。個々の演奏は、時間と空間を共有する者の中に起こる再現不可能な一度きりの出来事である。音楽は時間の芸術である。西洋音楽は、この芸術表現パターンの一つである。

本講義は、西洋音楽の源流をなすキリスト教教会音楽について学ぶ。歴史的・理論的に学ぶと同時に、実際の音楽を体験することを重視する。特に教会音楽は、演奏会のためにあるのではなく、メロディーを伴う祈りとして発展した。その側面を体験するため、受講生が共に「歌う」機会を可能な限り多く持つ。

信仰共同体の営みの中で発達した教会音楽は、キリスト教信仰を表現する内容が大半であるが、本講義は学的な目的のものであり、キリスト教信仰の布教を意図しないことは当然である。

楽譜が読めることは、受講に際して必要条件ではない。ただし、「歌う」機会が多くあることを理解して受講するように。

【講義計画】

授業は、大学チャペル（聖教主礼拝堂）で行う。原則として毎時間、担当教員に加えて、大学オルガニスト松原晴美氏が授業補助に当たる。

導入として、1960年代前半の第二ヴァチカン公会議後、カトリック教会典礼音楽運動の中から生まれた、テゼ共同体の音楽とその流れを汲む現代礼拝を学ぶ。印象深く短いフレーズの繰り返し及びその展開からなる音楽をとおり、教会音楽の一つの典型にふれる。

次いで、グレゴリオ聖歌、中世ルネッサンスミサ曲、古典期以降の宗教音楽、ゴスペル等に言及する。

後半は、英国教会のAnthemの伝統にふれ、何曲かをクラスのレパートリーにできることを目指す。

受講生全体での曲への取り組みに加えて、小グループでのアンサンブルを作ることも可能。

水曜3限目のこの授業直前、昼休みに行われるチャペル礼拝では、教会音楽のコンテキストである礼拝が学習できる。参加（見学）を勧める。授業後半には、希望する受講生グループにはこの礼拝での演奏の機会も提供できる予定。

【成績評価の方法】

10回以上の出席を、評価の条件とする。

「アンサンブルでの演奏」「ペーパー試験」どちらかの評価方法を選択できる。

【教科書】

初回授業で指示する。

【参考文献】

授業の進行に応じて、その都度指示する。

【備考】

チャペルを使用するため、受講制限を行う。秋学期に登録できるのは第2年次生と第3年次生のみ（第1年次生と第4年次生以上は春学期に登録可能）。各学期とも定員は180名。再募集は行わない。

科 目 名

世界市民—ことば・認識・経営

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|-------|
| 01 | 春学期 | 2単位 | 全 在 紋 |
| 02 | 秋学期 | | |

【講義概要・学習目標】

講義概要： 虹 (rainbow) はいくつの色からなっているでしょうか？ 7色だというのは、日本人・中国人・韓国人・フランス人たちだけです。英米はじめ、英語圏の人びとに見えるのは、6色です（ご存知でしたか？）。また、インド人やインドネシア人らには5色に見えるそうです。さらに、ジンバブエのアフリカ人には3色、リベリアのアフリカ人には2色にしか見えないそうです。

日本人は太陽を赤くまるく描きます。しかし、欧米や中央アジアなど、地球上では太陽を黄色くまるく描く民族の方がはるかに多いのです。台湾の国旗は「晴天白日旗」と言われますが、相当数の中国人には、太陽は白く見えているのでしょう。

同じ場所で、同じ時刻に、同じ事物を見る場合でも、民族ごとに違って見えるわけです。それは民族間で異なる〈ことば〉の違いによります。この講義では、ことばがコミュニケーションの手段にとどまらず、もっと深刻かつ強烈に、人間の知覚・認識・行動まで拘束することを明らかにします。

学習目標： 以下の内容について、専門学科的でなく共通教育的な理解を学習目標とします。

- ① 認識と存在の関係
- ② ことばの二大機能
- ③ 人間と動物の違い
- ④ ことばと経営の関係

【講義計画】

- ① 認識とことば
- ② 意味の意味
- ③ シグナルとシンボル
- ④ 外示と共示
- ⑤ 連辞関係と連合関係
- ⑥ 言語帝国主義
- ⑦ 経営のことば

【成績評価の方法】

学期中の小テスト（2回予定）と学期末試験との総合点で評価します。

【教科書】

全 在 紋 著、『会計言語論の基礎』、中央経済社、2004年
【毎時間必携】 ISBN 4-502-24570-4 C3034

【参考文献】

丸山圭三郎著、『ソーシャルを読む』、岩波書店、1983年
ISBN 4000048724

科 目 名

世界市民—在日華僑の歴史と現在

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|-------|
| | 秋学期 | 2単位 | 過 放 |

【講義概要・学習目標】

近年、世界的にグローバリゼーションが進み、物や情報だけでなく国境を超えた人の接触や移動も頻繁になってきている。今年度の講義では、日本社会の内なる国際化の視点から、身近な在日外国人—在日中国人を中心に取り上げる。とくに中華街の歴史、中国人コミュニティの形成、華僑と日本人との国際結婚、新華僑の事情などといった華僑社会の変貌に注目する。なかでもとくに在日華僑の歴史と現在に対する考察を通して、日本在住の外国人と海外在住の日本人、そして本学の建学理念でもある「世界市民」についての理解を深めることを目標とする。

なお、授業の進行により、講義計画を一部変更することがある。

【講義計画】

- ・隣人—在日外国人と華僑
- ・中国社会と華僑の生成
- ・海外の華僑華人
- ・在日華僑社会の形成
- ・在日華僑社会の変遷
- ・新来中国人
- ・中国人研修生と日本
- ・中国人留学生と日本
- ・世界華商大会と在日中国人
- ・海外の日本人と日本の外国人

【成績評価の方法】

出席状況、授業態度、レポート試験。詳細は最初の講義の際に説明する。

【教科書】

授業時に適宜資料を配付する。

【参考文献】

- ・過放『在日華僑のアイデンティティの変容』東信堂
 - ・斯波義信『華僑』岩波書店
 - ・山下清海編『華人社会がわかる本』明石書店
- その他授業時に適宜紹介をする。

| 科 目 名 | | | |
|------------------|------|-----|--------|
| 世界市民－社会福祉 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期 | 2単位 | 瀧澤 仁 唱 |

【講義概要・学習目標】

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式等を活用し理解させる。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解させる。
- 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解させる。
- 4 社会福祉の専門性と倫理について理解させる。
- 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容について理解させる。
- 6 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解させる。
- 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向について理解させる。

【講義計画】

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
- 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
- 4 社会福祉援助活動における専門性と倫理
 - 1) 専門性と専門職の内容
 - 2) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
 - 3) 社会福祉援助活動と倫理
- 5 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
- 6 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
 - 1) 社会福祉法・福祉六法及び関連法規の内容及び相互関係
 - 2) 社会福祉の実施体制
 - 3) 社会福祉の財政と費用負担
 - 7 社会福祉をめぐる我が国及び諸外国の動向
(履修学生の理解度に応じ変更される場合があります)

【成績評価の方法】

論述式筆記試験

【教科書】

法改正が多く、適当な教科書が間にあわないので、別途指示します。

【参考文献】

より詳しく調べたい方は、社会福祉小六法（2007年版）又は『社会福祉六法 2007（平成19）年版』（新日本法規）
必要に応じ一部条文はコピーしてわたしますので、特別な学習のために必要な方以外は『六法』を購入する必要はありません。

| 科 目 名 | | | |
|-----------------------|------------|-----|-------|
| 世界市民－世界市民の基礎知識 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 02 | 春学期 秋学期 | 2単位 | 宮本 孝二 |

【講義概要・学習目標】

この講義は、本学の建学の理念でもある世界市民の育成に向けて、その基本となる世界市民の基礎知識を習得してもらうことを目的としている。世界市民とは現在のところは理想にとどまっているが、これこそ現代世界が目標とすべきものであり、現代に生きる人々が世界市民となるべく自己形成し役割遂行することが期待される。そのための基礎知識として、この講義ではまず、目標となる世界市民の理念ないし理想を、その歴史的形成過程をたどりつつ示し、次いでその理想の実現を妨げている現代世界の主要問題の現状、原因、対策を可能な限りわかりやすく示したい。以上のように世界事情を解説するなかで、市民権すなわち人権や、これも本学建学の理念の基礎にあるキリスト教や、現代世界での大学生の役割などについても理解を深めていただけるであろう。

【講義計画】

- 1 序論：世界市民とは誰のことか
- 2 貧困、不平等、飢餓と資本主義
- 3 産業化と環境破壊
- 4 国民国家、民族、民主主義
- 5 戦争、紛争、テロリズム
- 6 宗教対立と原理主義
- 7 グローバル犯罪
- 8 人身売買と児童労働
- 9 移民、難民、人口移動
- 10 比較文化異文化理解
- 11 日本社会・日本文化の特殊性
- 12 まとめと補足

以上の内容を15回にわたって順次講義する

【成績評価の方法】

学期末試験（重要用語の空欄埋め問題と自由選択テーマの論述問題）の結果によって評価する。

【教科書】

特に使用しない。配布資料によって授業を進める。

【参考文献】

テーマごとに必要に応じてその都度紹介する。

科 目 名

世界市民－世界の中のヨーロッパ

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|---------|
| 01 | 春学期 | 2単位 | 米 山 喜 晟 |

【講義概要・学習目標】

世界市民になるには、当然世界を知る必要がある。世界を知るためには現代世界の支柱となっている西欧文明の母胎となったヨーロッパを知らざるを得ない。残念ながら私はヨーロッパについて大した知識があるわけではなく、あまり立派な世界市民でもないが、ヨーロッパの先進地域のひとつであったイタリアを長年研究してきたので、ヨーロッパに関する基本的な事実をお伝えすることなら何とか引き受けることができる。そこでこの講義を、ヨーロッパそのものを知ることと、ヨーロッパの世界の中で果たした役割を調べることとの二点に当てたい。

【講義計画】

前期は当然ヨーロッパそのものの成り立ちを知ることになる。まず最初の3～4時間は、地勢、気候その他の自然的条件や、人種の系統などといった人類学的研究成果に基づいて、ヨーロッパの自然科学的基盤を大まかに把握したい。続いて原始時代から古代にいたるヨーロッパの古典文化の叙述に5～6時間を当て、その後の5～6時間で今日のヨーロッパ諸国の直接の先祖である古代末期から、中世に至る時期のヨーロッパについて、世界に飛躍する直前の時期までを明らかにしたい。

【成績評価の方法】

レポート一回、試験一回、授業中二書いてもらう小論文1～2回と出席点をあわせて総合的に評価する。

【教科書】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

ウィリアム・マクニール（益田・佐々木訳）、世界史、中央公論新社。

エマニュエル・トッド（石崎・東松訳）、新ヨーロッパ大全、藤原書店。

科 目 名

世界市民－世界の中のヨーロッパ

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|---------|
| 02 | 秋学期 | 2単位 | 米 山 喜 晟 |

【講義概要・学習目標】

春学期と同じ。

【講義計画】

それまで世界の一地域に過ぎなかったヨーロッパが15世紀後半以降、突如として世界各地に進出する。秋学期には、こうして世界に進出したヨーロッパと世界との関わりとその時期のヨーロッパ自体の変化を概観する。いわゆる大航海時代の到来に関して2～3時間、宗教改革、南北ヨーロッパの覇権争いなどに2～3時間、フランス革命とナポレオンに2～3時間、産業革命と近代化などに3～4時間、二度の世界大戦におけるヨーロッパの没落およびEUの成立などに3～4時間を当てて、あわせてそれらの事件の世界全体への影響を考察したい。

【成績評価の方法】

春学期と同じ。

【教科書】

プリント配布。

【参考文献】

春学期と同じ。

さ
行

| 科 目 名 | | | |
|-------------|------|-----|---------|
| 世界市民－戦争と障害者 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 2単位 | 生 瀬 克 己 |

【講義概要・学習目標】

1. 戦前昭和期の指導者たちは何を考え何をめざしたのか。それらを正確に知ること。
2. これらの時代を、「<障害>者」という存在をキーワードにして見直すとき、どのような時代相が浮かび上がってくるのかということについて、多様に考えてみる。
3. そして、傷痍軍人の存在とそのほかの障害者のことを「一体の課題」として制度化できなかつたことが課題についても認識すること。

【講義計画】

はじめに一講義の目的と課題

1. 昭和の戦争の経過と人びと I・II
2. 戦時の身体観
3. 兵たちの生還と死傷 I・II
4. 兵たちの死傷と靖国神社
5. 優生学の時代と傷痍軍人
6. 総力戦体勢下の「障害」者と人びと I・II
7. 敗戦と戦後日本
8. 戦争責任の問題と東京裁判 I・II
9. 戦後の福祉制度下の傷痍軍人と「障害」者
まとめ

【成績評価の方法】

出席重視と教場での参加重視で評価する。

【教科書】

特には指定しない。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

| 科 目 名 | | | |
|--------------|------|-----|-------|
| 世界市民－知的財産権入門 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 2単位 | 辻 洋一郎 |

【講義概要・学習目標】

『知的財産』という言葉は知らなくても『特許』とか『著作権』という言葉は聞いたことがあるでしょう？知的財産は、最近、国際的に情報化や企業間競争が激しくなるにつれ注目されており、皆さん方も社会に出ると多かれ少なかれ、知的財産の恩恵を受けたり、関与することが多くなります。本講義では、知的財産の基礎的な知識と考え方、そしてそうした権利が重視されるようになった社会的背景と意義についてわかりやすく講義します。前半は知的財産全般について、後半は『特許』に焦点を当てて講義します。

【講義計画】

順不同で以下の項目を講義します。

- (1) 知的財産とは何か？
- (2) 知的財産の種類
- (3) 知的財産の歴史
- (4) 知的財産の役割
- (5) 特許の役割
- (6) 特許の仕組み
- (7) 特許の取得方法
- (8) 企業活動と特許

【成績評価の方法】

基本的には受講態度及び期末試験で評価。レポートを課すこともある。

【教科書】

講義中に指示します。

【備考】

講義中に適宜紹介します。

科 目 名

世界市民－天皇制について考える

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|-------|
| | 秋学期 | 2単位 | 鈴木 健 |

【講義概要・学習目標】

今日、世界の先進資本主義諸国の政治の現実と比して、日本のそれにはいくつかの「異常」な特徴がある。第二次世界大戦における日本の侵略行為を否定する異常、大戦後の日米関係における対米従属をかたくなに保持しようとする異常、大企業の利益を至上命題とする異常などである。いずれも大書特筆される異常ぶりであるが、その異常さにおいてかの大戦が侵略戦争であったことを否定する異常に止めを刺す。アジア諸国との関係悪化を承知でなお靖国参拝を強行した小泉前首相の政治行為が、あの戦争の侵略的性格を否定する異常の具体的な表現の一つの形であることは言うまでもない。この異常は何によるのか。本講義では、この異常の根源をなすと考えられる天皇制を取りあげ、それが日本の支配層を構成する諸勢力の制度的・思想的基盤として、現にどのように機能しているのか、そもそも歴史的にどのように機能してきたのかという問題について考えてみることにする。

【講義計画】

- 第1週 問題提起、日本政治の異常と天皇制
- 第2週 天皇は「王」ではない①
- 第3週 天皇は「王」ではない②
- 第4週 「王」から「天子・天皇・皇帝」へ①
- 第5週 「王」から「天子・天皇・皇帝」へ②
- 第6週 唐風の王権の模索と底流①
- 第7週 唐風の王権の模索と底流②
- 第8週 東アジアの大変動と古典的な国制・文化①
- 第9週 東アジアの大変動と古典的な国制・文化②
- 第10週 武家の台頭とモンゴルの襲来①
- 第11週 武家の台頭とモンゴルの襲来②
- 第12週 近世の天子と将軍①
- 第13週 近世の天子と将軍②
- 第14週 近代天皇制の諸問題
- 第15週 天皇制をめぐる現代的諸問題

【成績評価の方法】

レポートとテストによって判定する。その詳細は最初の講義の際に指示する。なお、出席を重視するので、出席できない学生、出席するつもりのない学生は受講しないことが望ましい。

【教科書】

吉田孝『歴史のなかの天皇』（岩波新書）

科 目 名

世界市民－「世界市民」という希望と現実

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|----------|------------|-----|---------|
| 01 02 | 春学期 秋学期 | 2単位 | 藤 森 かよ子 |

【講義概要・学習目標】

率直に言えば、法を守り、税金を納めていれば、「市民」であるわけではありません。それは、単なる「一般ピープル」です。では、「市民」とは何でしょうか？誰のことでしょうか？

この講義では、世界史を通じての「市民」概念の変遷と発展を学びます。まだまだ現実には「未完の人間像」でしかない「世界市民」という人間像をイメージできるようになりましょう。そして、それを生きていく自分の人生をイメージできるようになりましょう。実践するには、まず自分の脳に鮮やかなイメージを！

理解の助けのために、「市民」について考えさせるアメリカ映画を鑑賞しながら、日本人の「市民意識」の希薄さと、それを生んだ歴史的社会的背景についても考察します。

【講義計画】

- 第1回：「市民」概念の変化概観
映画鑑賞 Mr. Smith Goes to Washington
- 第2回：古代ポリスの市民像
映画鑑賞 Mr. Smith Goes to Washington
- 第3回：ローマ帝国の市民像
映画鑑賞 Mr. Smith Goes to Washington
- 第4回：中世ヨーロッパの市民像
映画鑑賞 Legally Blonde
- 第5回：ルネサンス期ヨーロッパの市民像
映画鑑賞 Legally Blonde
- 第6回：近代初期ヨーロッパの市民像
映画鑑賞 Legally Blonde
- 第7回：近代ヨーロッパ市民革命（その1）
映画鑑賞 Legally Blonde
- 第8回：近代ヨーロッパ市民革命（その2）
映画鑑賞 Legally Blonde 2
- 第9回：国民国家と市民
映画鑑賞 Legally Blonde 2
- 第10回：世界市民意識の誕生（その1）
映画鑑賞 Legally Blonde 2
- 第11回：世界市民意識の誕生（その2）
映画鑑賞 Legally Blonde 2
- 第12回：日本人の市民意識（その1）
映画鑑賞『生きる』
- 第13回：日本人の市民意識（その2）
映画鑑賞『生きる』
- 第14回：まとめ & 映画鑑賞『生きる』

<注意>鑑賞する映画が変更することがあります。悪しからずご了承ください。

【成績評価の方法】

出席と毎回の講義後に提出するコメントペーパーの内容と学期末試験から、総合的に判断します。

【教科書】

適宜、プリントを配布します。

【参考文献】

- (1) 太田 秀通『生活の世界歴史〈3〉ポリスの市民生活』（河出書房新社、1991）
- (2) 宮島 喬『ヨーロッパ市民の誕生－開かれたシティズンシップへ』（岩波書店、2004）
- (3) ジョン・ロック著/鶴飼信成『市民政府論』（岩波文庫、1968）
- (4) エマニュエル・カント著/宇都宮芳明訳『永遠平和のために』（岩波文庫、1985）

- (5) ジェームズ ボーマン & マティアス ルッツ-バツハマン
編/紺野茂樹&舟場保之&田辺俊明訳『カントと永遠平和—世界市民という理念について』(未来社、2006)
- (6) 鈴木崇弘&風巻浩&中林美恵子&上野 真城子『シチズン・リテラシー—社会をよりよくするために私たちにできること』(教育出版、2005)
- (7) バリー・R・ルービン/鈴木崇弘訳『アメリカに学ぶ市民が政治を動かす方法』(日本評論社、2002)
- (8) 有末賢&関根政美編『戦後日本の社会と市民意識』(慶應大学出版局、2005)
- (9) 西川長夫『地球時代の民族—文化理論—脱『国民文化』のために』(新曜社、1995)
- (10) 西川長夫『<新>植民地主義論』(平凡社、2006)

| 科 目 名 | | | |
|------------------------|------|-----|---------|
| 世界市民—米国の理念と世界政策 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期 | 2単位 | 松 村 昌 廣 |

【講義概要・学習目標】

現代の世界をよく理解するには、唯一の超大国、米国の世界政策とその影響を知ることなしには難しい。米国は啓蒙思想に基づき人権を重視し、世界に自由と民主主義と広げようとしてきた。他方、米国には地政学的な発想に基づき権力政治的な世界政策を追求してきた側面もある。独立革命以来続く、米国の理念と米国が直面する国際政治の現実との相克を把握することは、現在の世界における「世界市民」の理念と現実の緊張関係を理解するための重要な伏線になる。

具体的には、講義前半で米国の政治文化と理念を解説し、後半では、政治文化と理念の視点から米国の国家安全保障戦略の変遷を分析する。

【講義計画】

- 1) 政治文化の重要性
- 2) 安全保障国家の成立と展開 —四つの転換点
- 3) 聖書主義 —旧世界との決別
- 4) 社会契約論 —米国社会成立の正当化
- 5) フェデラリスト・ペーパー
- 6) モンロー・ドクトリン
- 7) ウィルソン主義
- 8) トルーマン・ドクトリン
- 9) ジョージ・ケナンとNSC-68
- 10) バンスと人権外交
- 11) クリントン「関与と拡大の国家安全保障戦略」
- 12) ブッシュ・ドクトリン
- 13) 総括
- 14) 試験

【成績評価の方法】

受講学生数が限定されていれば、出席点(50%) 期末試験(50%)。受講学生数が多ければ、期末試験のみ(100%)。試験問題は論述のみとするので、文章作成能力が高い学生だけが容易に単位を取得できる。採点は厳格に行う。講義内容は連続性、関連性が高いので欠席すると理解できない。安易な登録を避けてもらいたい。

【教科書】

なし

【参考文献】

講義の中で多数紹介する。米国の政治、経済、社会について基本的な知識に欠ける学生は参考書を是非読んでおくように。
柳本賢一郎『(2時間でわかる) 図解アメリカのしくみ』中経出版、最新版。

【備考】

政治学、政治学原論、国際関係論、国際政治事情研究、国際法、国際機構論を既に履修した学生には是非勧める。最低限、高校の社会科学の科目、とりわけ「世界史」や「公民」を十分習得していないければ、単位の取得は困難であろう。

科 目 名

世界の英語

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|-------|-----|---------|
| | 秋学期集中 | 4単位 | 野 原 康 弘 |

【講義概要・学習目標】

最近、グローバル化が進行する中、英語は世界中で最も広く通用する国際言語の地位を獲得している。インドのように、英語を準公用語にしているところもある。英語の国際化は、一方では英語の多様化を招き、いろいろな英語が登場している。一昔前までは、主要な英語はイギリス英語とアメリカ英語で、その違いだけが注目されていた。しかし今では、イングランドの周辺だけでも、スコットランド英語、ウェールズ英語、アイルランド英語がある。イングランドから遠く離れた地域にも、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、南アフリカ英語、インド英語、カナダ英語、シンガポール英語などが存在し、無視するわけにはいなくなってきている。変わったところでは、「商取り引き」のために生じた簡略されたピジン英語。アフリカの「シエラレオーネ」のフリータウンでは、そのピジン英語を母語とするクリオール語さえ誕生している。一つだった英語が、それぞれの国や地域で、それぞれの歴史と文化の中で、その地域の言語と融合し、独自の発達を遂げていったわけである。この講義では、それぞれの英語の歴史的な背景と特徴を解説していくことにする。

【講義計画】

1. 英語の歴史
2. イギリス英語
3. アメリカ英語
4. スコットランド英語とウェールズ英語
5. アイルランド英語
6. オーストラリア英語
7. 南アフリカ英語
8. アジアの英語
9. カナダ英語
10. ピジン英語

(講義の順番は変更する場合があります)

【成績評価の方法】

出席を重視する：全体の50%
 期末試験：全体の50%

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

授業中に指示する。

科 目 名

専門資料論

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|---------|
| | 春学期 | 2単位 | 松 永 俊 男 |

【講義概要・学習目標】

学術文献と一般資料との違い、分野による学術文献の特徴、学術文献の利用方法などについて解説する。

【講義計画】

1. 学術文献とはなにか
2. 学術文献の種類と特徴
3. 学術雑誌の歴史
4. 学術における不正
5. 二次資料
6. 学術文献のデジタル化
7. 百科辞典

【成績評価の方法】

平常点と最終テストとを総合して評価する。

| 科 目 名 | | | |
|--------------|------|-----|---------|
| 総合人間学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 寺 木 伸 明 |

【講義概要・学習目標】

20世紀に多くの学問で専門分野の細分化が起き、さまざまな「学」が生まれた。しかし、個別の「学」では、今日の人類が直面する地球環境、人口、教育、人権などの諸問題に十分答えることができない。21世紀には、学際的な人間に関する、新たな総合学が必要とされる。

この講義は上述のような学問的要請に応じて、複数の講師によって行われる「インテグレーション」科目として実施される。自然科学と人文・社会科学の最新の研究成果を踏まえながら、新たな学際的総合教育をめざす。ここで人間とは、生物種ヒトとその文化の双方を含み、現代文明のもとでさまざまな問題に直面しながら、科学・技術、法律、教育、芸術、宗教などを生み出している主体ととらえる。文化の多様性・相対性を認めつつも、異なる文化を持つ人々の間での共通性を解明することによって、ヒューマニズムとは何かという人間学の目標にも迫っていききたい。

【講義計画】

複数の講師によって実施されるインテグレーション科目で、内容は次のとおりである。

1. ヒト学入門：自然におけるヒトの位置、ヒトの行動の進化、ヒトの地理的多様性の理解
 2. 人間思想史：東西の哲人が語った人間像の理解と、人間理解の哲学的アプローチの理解
 3. 文学とヒューマニズム：愛・孤独・不安・挫折・苦悩等とヒューマニズム文学作品のもつ人間性へのメッセージの理解
 4. 異文化理解：東西文化の特徴と地理的条件、民族性、文化摩擦と国際交流の理解
 5. 国際人権論：アイヌをはじめとする世界の少数民族と先住民族の文化と歴史・現状、インド・日本などにおける身分差別の歴史と現状、人権に関わる国連の活動と国際法の理解
- なお、私語は厳禁。私語した場合、直ちに退室を命じる。また、15分以上の遅刻者には、正当な理由がないかぎり出席カードを配布しない。

【成績評価の方法】

毎回、出席カードに講義の感想・意見・疑問などを書いて提出してもらおう。学年末試験の点数を基本として、出席点を加味して総合的に評価する。

【教科書】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

尾本恵市『ヒトはいかにして生まれたか』岩波書店、1998年
 沖浦和光・寺木伸明・友永健三『アジアの身分制と差別』解放出版社、2004年

【備考】

インテグレーション科目
 <02~06生>
 共通自由科目として、LE・LI生対象外
 LE・LI生は学科教育科目

| 科 目 名 | | | |
|--------------|-------|-----|---------|
| 組織倫理学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 谷 口 照 三 |

【講義概要・学習目標】

組織倫理学は、その必要性が指摘され、また断片的に研究が進められてはいるが、まだ正式に社会から認知されていない学問の一つと言えよう。しかし、現代社会の閉塞状況を認識し、それを乗り越える、あるいは豊かな新しい時代への有意義な方途や基盤を探究することの緊急性から見れば、組織倫理学の意義と重要性はますます増大するであろう。

現代社会は、組織社会と言われていて、組織が人間や社会および自然に対して持つプラスとマイナスの影響力を明らかにすることは、社会科学の最重要な課題のひとつである。現在、とりわけ、「倫理問題」との関連においてその課題の探究が焦眉の急となっている。つまり、今日、「組織と倫理」の関係に着目する必要がある。組織は強力なパワーを持つ。それは、組織が「固有の倫理的価値」を創り出すことと無関係ではない。倫理的な生活を生きようとする人々の能力は、その「組織の倫理」に深く影響されている。それ故に、我々は、組織が非倫理的および倫理的になる可能性とそこで働く人々や他の利害関係者の行動へのそれらの影響に、もっと熱く、強い関心を注がなければならない。さらに、それと同時に、組織で働く、また組織に関係するすべての人々に対しても、良い意味においても悪い意味においても、当該「組織の倫理」の形成に参加していることへの自覚が、要請されるであろう。

組織倫理学は、種々の立場から展開可能であろう。本講義では、「現代社会の特徴とその変容」と「経営学の発展」を文脈に、以上の点を中心に組織倫理学を構想し、最終的にはその考察を通して「責任経営の学」としての経営学の可能性を展望したいと思う。

【講義計画】

- I. 序論—学問と経営世界：21世紀における経営学—
- II. 近代社会の変容と経営学の発展
- III. 責任経営への視座と責任概念の再構築
- IV. 責任経営への動向と「責任経営の学としての経営学」の展望
- V. 「責任経営の学」から組織倫理学の構想へ—組織倫理を語る視座—
- VI. 組織倫理学構築の基礎
- VII. 組織倫理学の中心的論点
- VIII. 組織倫理学の本質とその射程
- IX. 経営学の組織倫理学的転回—「責任経営の学」としての可能性—
- X. 結論—「責任経営の学」としての経営学：その広がりや深み—

【成績評価の方法】

出席状況と試験（本試験と場合によっては複数の小テストを含む）、および1,2回のレポートによる総合判定。

【教科書】

使用しない。ほぼ毎回レジュメを用意する。

【参考文献】

その都度必要に応じ提示する。

| 科 目 名 | | | |
|-----------|------|-----|---------|
| 卒業論文 [SW] | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 4単位 | 石 田 易 司 |
| 02 | 通期 | 4単位 | 伊 藤 高 章 |
| 03 | 通期 | 4単位 | 郭 麗 月 |
| 04 | 通期 | 4単位 | 川 井 太加子 |
| 05 | 通期 | 4単位 | 黒 田 隆 之 |
| 06 | 通期 | 4単位 | 坪 山 孝 |
| 07 | 通期 | 4単位 | 松 端 克 文 |
| 09 | 通期 | 4単位 | 安 原 佳 子 |

【講義概要・学習目標】

3回生の演習で積み上げてきた学習を深め、卒業論文という形にして書き上げることを目的とする。そのため、この講義では、各自、研究したいテーマを設定し、それに基づき、参考文献の紹介および探し方、論文の書き方等に関して、指導する。

基本的には、個人指導あるいはグループ指導とする。

【講義計画】

春学期：テーマの設定・参考文献の収集・論文の組み立てをし、中間発表会を行う。

秋学期：卒業論文を完成させる。

【成績評価の方法】

卒業論文の内容で評価する。

【教科書】

適宜紹介

【参考文献】

適宜紹介

| 科 目 名 | | | |
|-----------|------|-----|---------|
| 卒業論文 [SW] | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 08 | 通期 | 4単位 | 松 本 眞 一 |

【講義概要・学習目標】

児童福祉関係領域をテーマとする卒業論文作成希望者を受け入れる。児童福祉分野には、養護問題、虐待問題、少子化問題、保育問題、教育問題、非行問題、年少労働問題、遊び場問題、心身障害問題、健康問題など種々の福祉課題が包摂されるが、それらのうち、障害児問題及び健康問題を除く上記の児童福祉課題に関する卒業論文作成の過程を通じて児童福祉の専門的理解を深めることを目標とする。

【講義計画】

〔春学期〕

この期には、上記のようなさまざまな児童福祉課題の中から受講生自身が興味を抱く課題に関する文献を図書館等から収集して、それらを読み咀嚼し、レポート（1000字程度）を作成する。これらの作業を繰り返すことによって、卒業論文のテーマと概要をこの期間中に構想できるようにする。受講生は、2～3週に1回レポートの報告が義務づけられる。

〔秋学期〕

「章立て」（卒論の骨子となる章及び節）の肉付け作業（論文執筆作業）が開始されると同時に、担当者から受講生に対して個別的・集団的指導が行われる。

【成績評価の方法】

提出された卒業論文、レポート数等で総合評価する。

【教科書】

特になし

【参考文献】

特になし

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 村落社会学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 清 水 由 文 |

【講義概要・学習目標】

本講義の副題として「農と食の社会学」として講義します。最近BSE問題、鳥インフルエンザなどいろいろ食の問題が多発しています。それは日本の食料自給率（カロリー計算）で40%であること、食のグローバル化などが強く関連しています。そこでこれらの問題の理解のためには生産者である「農民」や「農村」と消費者の「食生活」との関連で考えていく必要があります。したがって、まず戦後の日本の農業、農村はどのように変化したのか、またそれを東南アジア（タイ）の農村などと比較したい。次に現代の食生活は飽食の時代といわれて久しいのですが、われわれの食生活はどのように変化してきたのかという問題を農業と関連付けて検討し、東南アジアなどどのように違っているのかという比較の視点もいれて考えていきたいと思っています。

【講義計画】

(1) 農業・農村問題

1. 戦前の日本の農業・農村社会
2. 戦後農地改革による日本の農業・農村の変化
3. 1960年以降の高度成長経済と農業基本法
4. 日本の農業・農村の現状
5. 日本の村落の仕組み
6. 東南アジア農村の仕組み
7. 日本の村落の構成要素である「家」と親族
8. 過疎化問題と農業・農村の活性化
9. グリーンツーリズムとは—京都府美山の事例をとおして

(2) 消費者側の食生活の変化

1. お米の問題
2. 食料自給率の低下と食料輸入の問題
3. 食料の安全性の問題—BSEをとおして
4. 食の近代化—食生活の成熟とフードシステム
5. 食の外部化—内食・中食・外食の視点—
6. ファーストフードとマクドナルド化
7. スローフード運動と食生活
8. 家族での共食、孤食、個食と食育問題、食生活の指針
9. 東南アジアでの食生活の特徴—日本との比較をとおして
10. 講義全体のまとめ—農と食の将来

以上の講義内容に対応した視聴覚教材をとおして理解しやすいようにしていきたい。

なお2006年度のこの講義の評価はA=32.7%、B=26.9%、C=22.3%、D=18.2%であった。

【成績評価の方法】

定期試験（80%）、授業中の小レポート（20%）による総合評価

【教科書】

とくに使用しない。

【参考文献】

講義中に適宜提示する。

| 科 目 名 | | | |
|-------------|------|-----|---------|
| 大学生生活入門セミナー | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 春学期 | 2単位 | 松 尾 順 介 |

【講義概要・学習目標】

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達の輪を作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

<学習目標>

- 1 講義におけるノートの取り方を学ぶ
- 2 レジュメの作り方を学ぶ
- 3 発表・報告・討論の仕方を学ぶ

* 全回出席を原則とする。

【講義計画】

(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 図書館 オリエンテーション
- 第3回 情報センター オリエンテーション
- 第4回 ノートの作り方（ミニ講義）（1）
- 第5回 ノートの作り方（ミニ講義）（2）
- 第6回 ノートの作り方（ミニ講義）（3）
- 第7回 大学生生活及び入門セミナーについての意見交換
- 第8回 報告の仕方（文献講読と発表）（1）
- 第9回 報告の仕方（文献講読と発表）（2）
- 第10回 討論（1）
- 第11回 討論（2）
- 第12回 本授業の反省会とカリキュラムの説明
- 第13回 基礎学力テスト
- 第14回 キャリア支援講義

* 授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

【教科書】

適宜指示します

【参考文献】

適宜指示します

【備考】

編入生対象クラス

| 科 目 名 | | | |
|------------|------|-----|---------|
| 大学生活入門セミナー | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 春学期 | 2単位 | 野 原 康 弘 |

【講義概要・学習目標】

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達との輪を作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

<学習目標>

- 1 講義におけるノートの取り方を学ぶ
- 2 レジュメの作り方を学ぶ
- 3 発表・報告・討論の仕方を学ぶ

*全回出席を原則とする。

【講義計画】

(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 図書館 オリエンテーション
- 第3回 情報センター オリエンテーション
- 第4回 ノートの作り方(ミニ講義)(1)
- 第5回 ノートの作り方(ミニ講義)(2)
- 第6回 ノートの作り方(ミニ講義)(3)
- 第7回 大学生活及び入門セミナーについての意見交換
- 第8回 報告の仕方(文献講読と発表)(1)
- 第9回 報告の仕方(文献講読と発表)(2)
- 第10回 討論(1)
- 第11回 討論(2)
- 第12回 本授業の反省会とカリキュラムの説明

*授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

【教科書】

適宜指示します

【参考文献】

適宜指示します

【備考】

留学生対象クラス

| 科 目 名 | | | |
|------------|------|-----|---------|
| 大学生活入門セミナー | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 03 | 春学期 | 2単位 | 松 尾 順 介 |

【講義概要・学習目標】

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達との輪を作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

<学習目標>

- 1 講義におけるノートの取り方を学ぶ
- 2 レジュメの作り方を学ぶ
- 3 発表・報告・討論の仕方を学ぶ

*全回出席を原則とする。

【講義計画】

(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 図書館 オリエンテーション
- 第3回 情報センター オリエンテーション
- 第4回 ノートの作り方(ミニ講義)(1)
- 第5回 ノートの作り方(ミニ講義)(2)
- 第6回 ノートの作り方(ミニ講義)(3)
- 第7回 大学生活及び入門セミナーについての意見交換
- 第8回 報告の仕方(文献講読と発表)(1)
- 第9回 報告の仕方(文献講読と発表)(2)
- 第10回 討論(1)
- 第11回 討論(2)
- 第12回 本授業の反省会とカリキュラムの説明
- 第13回 基礎学力テスト
- 第14回 キャリア支援講義

* 授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

【教科書】

適宜指示します

【参考文献】

適宜指示します

【備考】

A〇生対象クラス

| 科 目 名 | | | |
|-------------|------|-----|-------|
| 大学生生活入門セミナー | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 04 | 春学期 | 2単位 | 片岡信之 |
| 05 | 春学期 | 2単位 | 片岡信之 |
| 06 | 春学期 | 2単位 | 片岡信之 |
| 07 | 春学期 | 2単位 | 河合隆治 |
| 08 | 春学期 | 2単位 | 河合隆治 |
| 09 | 春学期 | 2単位 | 河合隆治 |
| 10 | 春学期 | 2単位 | 谷口照三 |
| 11 | 春学期 | 2単位 | 谷口照三 |
| 12 | 春学期 | 2単位 | 中村恒彦 |
| 13 | 春学期 | 2単位 | 中村恒彦 |
| 14 | 春学期 | 2単位 | 野田俊範 |
| 15 | 春学期 | 2単位 | 野田俊範 |
| 16 | 春学期 | 2単位 | 正亀芳造 |
| 17 | 春学期 | 2単位 | 松尾順介 |

【講義概要・学習目標】

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強をするための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達との輪を作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

<学習目標>

- 1 講義におけるノートの取り方を学ぶ
- 2 レジュメの作り方を学ぶ
- 3 発表・報告・討論の仕方を学ぶ

*全回出席を原則とする。

【講義計画】

(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 図書館 オリエンテーション
- 第3回 情報センター オリエンテーション
- 第4回 ノートの作り方 (ミニ講義) (1)
- 第5回 ノートの作り方 (ミニ講義) (2)
- 第6回 ノートの作り方 (ミニ講義) (3)
- 第7回 大学生活及び入門セミナーについての意見交換
- 第8回 報告の仕方 (文献講読と発表) (1)
- 第9回 報告の仕方 (文献講読と発表) (2)
- 第10回 討論 (1)
- 第11回 討論 (2)
- 第12回 本授業の反省会とカリキュラムの説明
- 第13回 基礎学力テスト
- 第14回 キャリア支援講義

*授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

【教科書】

適宜指示します

【参考文献】

適宜指示します

【備考】

AO生対象クラス

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|-------|
| 地域経済論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 芝村篤樹 |

【講義概要・学習目標】

日本近代都市の形成と展開について、戦後の高度経済成長期までたどる。そして、現代都市の諸問題を考えたい。その際に、主な対象となるのは大阪である。講義室を友人の交流・団欒の場と心得る諸君の入室を厳禁する。つまり、私語は禁止である。

【講義計画】

1. 日本近代都市の形成
2. 1920・30年代の都市
3. 都市における戦前と戦後
4. 高度経済成長期の都市
5. 現代都市の課題

【成績評価の方法】

講義時の小レポート、期末試験。

【教科書】

芝村 篤樹 著『都市の近代・大阪の20世紀』（思文閣出版）

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

<02~06生>

共通自由科目として、E生対象外

E生は学科教育科目

科 目 名

地域研究 I

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|-------|
| | 通期 | 4単位 | 捧 壁 二 |

【講義概要・学習目標】

今日の世界をアメリカを中心に考察する。
アメリカが中心で、一部イギリスにもふれる。
間接的には日本、朝鮮半島、その他の世界についても言及する予定だ。

【講義計画】

- 1 大国・超大国・アメリカ
- 2 覇権交代史観
- 3 アメリカと民主主義
- 4 ビーブルと共和制
- 5 フクヤマの理論
- 6 ハンチントンの「諸文明の衝突」の理論
- 7 イスラムの「脅威」
- 8 20世紀と共産主義
- 9 地政学
- 11 テロと暗殺
- 12 ケネディ暗殺事件
- 13 朝鮮戦争をめぐる諸問題
- 14 陰謀論

【成績評価の方法】

- ①レポートは提出を求めるかもしれない。
- ②定期試験が中心

【教科書】

使用しない

【参考文献】

- サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社
 サミュエル・ハンチントン『文明の衝突と21世紀の日本』集英社新書
 フランシス・フクヤマ『アメリカの終わり』講談社
 フランシス・フクヤマ『歴史の終わり』上中下、三笠書房
 舛添要一『「新しい戦争」と日本の貢献』小学館文庫
 落合信彦『ケネディからの伝言』集英社文庫
 落合信彦『決定版 2039年の真実』集英社文庫
 ジム・ギャリソン『JFK』早川文庫
 秦郁彦『昭和史の謎を追う』上下、文春文庫
 松本清張『日本の黒い霧』上下、文春文庫
 萩原遼『朝鮮戦争』文春文庫

【備考】

<02~05生>
 共通自由科目として、J生対象外
 J生は学科教育科目

科 目 名

地域研究 II

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|---------|
| | 通期 | 4単位 | 鈴 木 博 信 |

【講義概要・学習目標】

「ロシア・東欧の政治と社会」
 ○冷戦 (Cold War) の時代、アメリカと張り合ってみせたもう1つの超大国「ソビエト帝国」は、16年前の1991年にあっけなく自壊した。わずか74年の短命だった。
 ○ソビエト帝国崩壊の原因、病根はどこにあったのか、帝国を支配したエリート層 (=ノーメンクラトゥーラ) はどう転身したのか、一体どこへ行ったのか？プーチン時代の「今」までを視野に入れて講じたい。

【講義計画】

1. ソビエト帝国からロシア連邦へ—ノーメンクラトゥーラはどこへ行ったのか？
2. 世界をゆるがした3日間 (1) — 2人の大統領
3. 世界をゆるがした3日間 (2) — クーデタはだれにとって必要だったのか？
4. 共産主義、社会主義、マルクス=レーニン主義
5. ナロードニキからテロリストに、革命家に
6. 「10月革命」、それは2月の「革命」をくつがえした「クーデタ」
7. スターリンの帝国—独裁的統治のテクノロジー
8. フルシチョフの綱わり—改革者 I の冒険
9. 改革者 II ゴルバチョフ登場—
10. エリツィン体制も「クーデタ」でつくられた
11. プーチン第 I 期—'99. 9. 9がロシアの「9.11」
12. プーチン第 II 期—「KGB帝国」の構築すすむ
13. プーチン時代の位置—「ロシア政治史」のサイクルからみると

【成績評価の方法】

- 期末の大レポート—最低2冊以上の文献を使用して—
 ○夏休み前に課す小レポート

【教科書】

特定せずに随時、文献を紹介する

【参考文献】

ロシアについては—横手慎二『現代ロシア政治入門』（慶応大学出版会）、アダム・ウラム（鈴木博信訳）『膨張と共存—ソヴェト外交史』（全3巻、サイマル出版会）、マーシャル・ゴールドマン『強奪されたロシア経済』（NHK出版協会）『新版 ロシアを知る事典』（平凡社）；東欧については—『社会主義の20世紀』（全6巻、NHK出版協会）、『東欧を知る事典』（平凡社）など多数

| 科 目 名 | | | |
|--------------|-------|-----|---------|
| 地域福祉論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 松 端 克 文 |

【講義概要・学習目標】

1. 地域福祉の理念と内容について理解させる
2. 地域福祉計画の意義と内容、地域福祉の推進方法について理解させる
3. 地域福祉の現状について理解させる

【講義計画】

1. 現代社会におけるコミュニティと地域福祉
2. 現代社会と地域福祉
 - (1) 地域福祉理念の発達
 - (2) 地域福祉の概念と範囲
 - (3) 地域福祉の役割と意義
3. 地域福祉の構成
4. 地域福祉の推進方法
 - (1) 推進の基本的な考え方
 - (2) 地域福祉計画の意義と内容
 - (3) 市町村と社会福祉協議会の役割と住民参加の意義
 - (4) サービス提供組織とその運営方法
 - (5) 人材の構成およびその動員方法
 - (6) 財源の構成とその調達方法
 - (7) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職およびその連帯のあり方
5. 地域福祉の現状と課題
 - (1) 実践を中心とした現状と課題
 - (2) 地域福祉をめぐる政策的な現況と課題
 - (3) 事例検討

| 科 目 名 | | | |
|---------------|-------|-----|---------|
| 地域文化概論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 今 澤 浩 二 |

【講義概要・学習目標】

世界にはさまざまな地域があり、それぞれの地域にはその地域特有の「地域文化」が存在する。そうした「地域文化」はどうか捉えるべきなのか、どのように見ていくべきなのか。

本講ではこうした問題について、トルコという地域を題材に取り上げて考察し、ひとつの地域の文化を見る上での視点を考えたい。

【講義計画】

1. 自然—トルコの自然と地理—
2. 宗教—イスラーム—
3. 歴史—トルコ民族史—
4. 現代社会の諸相—住民・宗教観・食文化・スポーツなど—

【成績評価の方法】

出席点（最低20回以上の出席が必要）と数回のレポートによって、総合的に評価する。

初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

【教科書】

なし

【参考文献】

講義中に随時、紹介する。

科 目 名

地誌

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|----------|------|-----|-------|
| 01 02 | 春学期 | 2単位 | 矢 嶋 巖 |

【講義概要・学習目標】

本講義では、世界の諸地域について自然・人文・社会環境を学ぶことで、激しい変化を遂げている世界各地の総合的理解を目標とする。また地誌を学ぶことで、世界の地域的多様性や相互的影響の理解につながることも期する。

なお、本講義は教職課程の履修科目としても位置づけられているため、毎回の講義で講義内容についての小試験あるいはレポートなどを課す予定であり、また成績評価も厳しく行う。そのつもりで臨みたい。

【講義計画】

1. 東アジアの地誌
2. 東南アジアの地誌
3. 南アジアの地誌
4. 西アジア・北アフリカの地誌
5. 中南アフリカの地誌
6. ヨーロッパの地誌
7. CISの地誌
8. アングロアメリカの地誌
9. ラテンアメリカの地誌
10. オセアニアの地誌
11. 日本の地誌

【成績評価の方法】

定期期間内試験と毎回実施する小試験の成績から評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

河上 税・田村俊和編著『日本からみた世界の諸地域：世界地誌概説』原書房, 2001年

その他、講義時に適宜指示する。

【備考】

講義には中学・高等学校で使用した地図帳を持参することが望ましい。

科 目 名

地誌

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|----------|------------|-----|--------|
| 03 07 | 春学期 秋学期 | 2単位 | 佐々木 育子 |

【講義概要・学習目標】

21世紀を生きる私達は、好むと好まざるとにかかわらず、世界の諸地域と関わりをもち、その動きに影響される。

諸地域は如何にして形成され、そこに住む人々は何を求め、どのように生活しているかを、いくつかの国を中心にこの講義では見ていきたい。

(付) 教員・公務員等の試験を受ける人のために、授業の一部で過去問を扱う時間も入れる予定。

【講義計画】

- 1 はじめに
- 2 アングロアメリカ (アメリカ合衆国)
- 3 EU諸国
- 4 ロシアと旧ソ連邦諸国
- 5 西アジア～北アフリカ
- 6 サハラ以南のアフリカ
- 7 オーストラリア
- 8 ラテンアメリカ
- 9 南・東南アジア
- 10 東アジア (中国・朝鮮半島)
- 11 おわりに (日本)

【成績評価の方法】

定期試験

ミニレポートも加味

出席点はボーダーで考慮に入れる

【教科書】

『標準高等地図一地図でよむ現代社会一』帝国書院

【参考文献】

授業中に紹介

| 科 目 名 | | | |
|----------|------------|-----|-------|
| 地誌 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 04 08 | 春学期 秋学期 | 2単位 | 野 尻 亘 |

【講義概要・学習目標】

地理学の応用として、世界の諸地域の特色の理解と把握について、人文・社会・自然環境の観点から考察を加える。あわせて中学社会科・高校地理歴史科授業のための地理教材研究を行う。

【講義計画】

教職の「教科に関連する専門科目」として、文部科学省より、一般的・包括的内容を講義することが義務づけられているため、テキストに準拠して、世界の諸地域全体の特色を、一般的・網羅的に学習するとともに、中学・高校の授業教材として活用する方法を検討する。

【成績評価の方法】

定期期間内試験（期末テスト）の客観的得点のみで成績をつけます。教職に関連する科目でもあるので、内容が幅広く、地名などを大量に暗記してもらう必要があり、かつ安易に単位が出せない事情があることを理解して、注意して履修してください。

【教科書】

河上税・田村俊和『日本からみた世界の諸地域 ー世界地誌概説ー』原書房

【参考文献】

中学・高校時に使用した「地図帳」が家に残っていれば、授業に持って来ていただければ幸いです。

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|-------|
| 地誌 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 05 06 | 秋学期 | 2単位 | 矢 嶋 巖 |

【講義概要・学習目標】

本講義では、世界の諸地域について自然・人文・社会環境を学ぶことで、激しい変化を遂げている世界各地の総合的理解を目標とする。また地誌を学ぶことで、世界の地域的多様性や相互的影響の理解につながることも期する。

なお、本講義は教職課程の履修科目としても位置づけられているため、毎回の講義で講義内容についての小試験あるいはレポートなどを課す予定であり、また成績評価も厳しく行う。そのつもりで臨まれたい。

【講義計画】

1. 東アジアの地誌
2. 東南アジアの地誌
3. 南アジアの地誌
4. 西アジア・北アフリカの地誌
5. 中南アフリカの地誌
6. ヨーロッパの地誌
7. CISの地誌
8. アングロアメリカの地誌
9. ラテンアメリカの地誌
10. オセアニアの地誌
11. 日本の地誌

【成績評価の方法】

定期期間内試験と毎回実施する小試験の成績から評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

河上 税・田村俊和編著『日本からみた世界の諸地域：世界地誌概説』原書房, 2001年

その他、講義時に適宜指示する。

【備考】

講義には中学・高等学校で使用した地図帳を持参することが望ましい。

科 目 名

知的財産法

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|-------|-----|-------|
| | 春学期集中 | 4単位 | 馬 場 巖 |

【講義概要・学習目標】

知的財産権は、いたって私達にとって身近な権利です。講義で詳しく話しますが、例をあげればカップヌードルや携帯電話などに関係しています。

知的財産権とは、特許法（発明）・実用新案法（考案）・意匠法（意匠）・商標法（商標）といった産業財産権と著作権法（著作物）、不正競争防止法・商号、種苗法などの無体物で財産的価値のあるものを対象にしています。

本授業では、これら知的財産権の基礎知識の習得を目指します。

【講義計画】

ガイダンス・知的財産権の目的・特許法・実用新案法・意匠法・商標・商号・著作権法・パブリシティの権利・不正競争防止法・種苗法の順番でおのこの法律をみていきます。

なお、これらに関する事件・判例などが出た場合には、それについての授業にかえる場合があります。

【成績評価の方法】

授業中に行うレポートと試験によります。

【教科書】

新・はじめて学ぶ知的所有権法 清水幸雄 北樹出版

【参考文献】

授業において指示します。

【備考】

私語は厳禁です。

科 目 名

地方財政論

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|-------|-----|-------|
| | 秋学期集中 | 4単位 | 藤 田 香 |

【講義概要・学習目標】

日本の財政事情（財政赤字）は歴史的にも国際比較に見ても、例を見ないほどの厳しい状況にあります。にもかかわらず現在、少子・高齢化社会の到来に向けた医療・福祉・年金改革や景気対策のための公共投資など財政の多様な機能が求められています。同時に、経済のグローバリゼーション、地方分権改革や地球環境問題等に対応するかといった新たな課題に対する解決策が模索されています。

この講義ではテキストを利用して、地方財政の仕組み・特徴・課題について検討いたします。具体的には、地方財政の役割とその仕組み、地方財政をめぐる議論、日本の地方財政の歩み、諸外国の地方財政等について、図表や事例を交えながら実施する予定です。

「地方財政」が持つ現代的な意味、問題を検討することから、皆さんの身の回りにある社会を見つめてみませんか。

【講義計画】

1. 地方財政論について：その特徴と課題
2. 現代地方財政の理論と構造
 - 1 日本の地方自治と地方財政
 - 2 地方自治体の予算制度とローカル・ガバナンス
 - 3 地方経費の構造と機能の変化
 - 4 地方税と課税自主権
 - 5 国と地方の財政関係
 - 6 「三位一体の改革」の展開と地方交付税改革論
 - 7 地方公共サービスと地方公営企業、地方公社・第三セクター、NPO
3. 転換期の地方財政政策論
 - 1 自治体再編下の地方自治財政
ー市町村合併・道州制と自治体財政ー
 - 2 都市制度の多様化と「都市再生」・都市財政
 - 3 農村の政策と財政
 - 4 災害と地方行財政
 - 5 公共事業改革と自治体財政
 - 6 循環型社会と地方自治
4. 分権型共同福祉社会と財政的自治の設計

【成績評価の方法】

レポートによって評価する。

【教科書】

宮本憲一・遠藤宏一編著『セミナー現代地方財政Ⅰ 「地域共同社会」再生の政治経済学』（勁草テキスト・セレクション）、2006年、勁草書房。（ISBN 4-326-50283-5、本体3000円）

【参考文献】

講義の中で、適宜紹介する。

| 科 目 名 | | | |
|--------------|------|-----|-------|
| 中国企業論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 2単位 | 唐 成 |

【講義概要・学習目標】

講義概要：急速な経済成長が続く中国は、現在産業構造の転換や企業の目覚ましい発展期を迎えています。他方、近年の日本企業は中国への進出もいっそう加速しており、今後日本企業にとっても中国市場をいかに位置づけ、取り込んでいくかはきわめて重要なテーマである。本講義は、主として、中国の産業および企業に焦点を当て、次のような3つの講義内容によって構成されています。まず、主な中国産業の発展過程と特徴を明らかにする。次に「世界の工場」の担い手としての中国企業に関する豊かな実態データをもとに、企業とその経営実態を分析しつつ、中国企業のビジネスモデルとその実力を解き明かす。最後に中国での日系企業の展開をふまえて、日本企業の中国におけるビジネス活動の現状や人事制度、経営戦略などの特徴を理解する。

学習目標：

- ・ 激しい市場競争の戦いを繰り返す中国系企業と外資系企業の現状への理解を深めること。
- ・ 中国における日本企業のビジネス戦略と課題を理解する。
- ・ 講義内容への理解をいっそう深めるため、講義と関連するテーマに沿って、グループによるテーマ（たとえば、中国の自動車産業と市場、21世紀に中国で勝ち残る日系企業のビジネスのあり方など）の勉強を重ね、講義の最後にグループワークのプレゼンテーションを行う。

【講義計画】

1. ガイダンス：講義の内容と方法の説明、講義の概況の説明
2. 中国の経済改革、産業の歴史と現状
3. 中国の主な産業（1）（鉄鋼業、エネルギー産業、アパレル産業など）
4. 中国の主な産業（2）（情報通信産業、半導体産業、家電産業など）
5. 企業改革と民営企業の形成と発展
6. 中国企業経営者の実態、能力・素質と技能
7. 中国企業の組織と人事・労務管理
8. 中国の代表的地場企業事例分析（1）
9. 中国の代表的地場企業事例分析（2）
10. 中国企業のグローバル化
11. 日系企業の中国進出と事業活動
12. 日系企業の対中戦略と課題
13. グループワークによるプレゼンテーション
14. グループワークによるプレゼンテーション
15. 総括 中国ビジネスのリスクとチャンス

【成績評価の方法】

授業参加度、グループワークのプレゼンテーション、期末レポートを総合的に評価する。

【教科書】

指定なし。毎回講義資料を配ります。

【参考文献】

安室健一著『中国企業の競争力』日本経済新聞社、2003年。
清家彰敏・馬淑萍著『中国企業と経営』角川書店、2005年。

【備考】

<06～07生>
共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目

| 科 目 名 | | | |
|--------------|-------|-----|-------|
| 中国経済論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 巖 善 平 |

【講義概要・学習目標】

中国の経済規模は2006年にアメリカ、日本、ドイツに次ぐ世界第4位に浮上した。輸出入総額、世界の対中直接投資額もそれぞれ世界の第3位、第2位となっている。日本にとっては中国が2004年から長年首位を占めたアメリカに取って代わった貿易相手国となっている。国際経済における中国のプレゼンスが高まるばかりである。

経済大国となりつつある中国だが、国内には巨大な地域間格差、工業公害をはじめとする環境問題、深刻な政治腐敗、潜在的な食糧需給逼迫、少子高齢化とそれに伴う社会保障体制の再建など問題も山積している。2020年まで年率7%の持続的成長が目指されているが、果たして可能であろうか。仮にそうなった場合、国際経済とくに日本経済にどのような影響を及ぼすか。

この講義では、経済大国とはなったが、一人当たり所得水準が1000米ドル余りの途上国としての中国について、経済問題を中心としながら、歴史や社会、政治も視野に入れて体系的に説明する。そして、日中関係なかでも日中の経済関係に関するテーマを取り上げその現状を解説して将来展望を行う。中国に親近感をもつ人が激減しているなかでこそ、巨大な隣人をより客観的に理解し冷静な対応が求められている。この講義はそのための知識を提供する。

【講義計画】

授業では、下記の教科書をベースに、関連するトピックを20回程度に整理してそれぞれについて詳しく解説する。授業の内容に合わせてNHK等が製作したドキュメンタリーを放映する（6回程度）。

第1部 総論

- ・ 世界の工場か、世界の市場か?—中国経済の軌跡と展望
 - ・ 社会主義市場経済とは何か?—漸進型移行経済と政府の役割
- 第2部 産業発展と企業改革
- ・ メイド・イン・チャイナは世界市場を席卷するか?—工業化と成長要因
 - ・ 国有企業改革はどこまで進んだか?—国有企業の改革と所有形態の多様化

第3部 労働市場と金融・資本市場

- ・ 失業率は本当に低いのか?—人口変動と労働市場の形成
- ・ 金融は中国経済のアキレス腱か?—金融・資本市場の形成

第4部 対外開放と国際関係

- ・ 輸出は成長のエンジンか?—国際貿易の要因と意義
- ・ 外資は何をもたらしたか?—外資導入の役割

第5部 成果と課題

- ・ 持続的成長は可能か?—エネルギー・環境・食糧の制約
- ・ 成長の果実は誰の手に?—改革開放の光と影

【成績評価の方法】

出席状況（50点）、レポート（10点）、期末試験（40点）を総合して行う。

【教科書】

南亮進・牧野文夫編『中国経済入門・第2版』日本評論社 2005年

【参考文献】

中兼和津次監修・シリーズ現代中国経済 全6巻
巖善平のホームページ <http://rio.andrew.ac.jp/~yan-sp/>
ほかは随時配布。

科 目 名

中国語 I a

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|----------------|
| 01 | 通期 | 2単位 | サ 左 ヨウ 虹 |

【講義概要・学習目標】

中国語初習の学生に対して、基本的な構文を中心とした中国語の文法知識を学びながら、現代中国語の基礎作りをすることにある。前期は、発音を中心とする授業を予定している。後期は発音段階が終われば、文章で中国語の構造になれるながら、理解の基礎となる文法知識を増やしていく。後期は、発音基礎を固めながら、文法知識を増やししながら、読解力をつけていくよう授業を進める。一年で、600語～700語前後マスターできるよう努力する。

【講義計画】

前期：発音練習に全力を注ぎ、中国語の音節の発音、ピンインの綴り方を徹底して訓練する。基本となる三大文法の学習を中心とした授業をする予定。

後期：前期で習得した内容を復習しながら、複雑な文型、補語、受身などの文法をさらに身につけるよう授業をする予定。

【成績評価の方法】

平常点（出席状況20%、宿題の提出など20%）、確認テスト（60%）などの総合点数で成績を評価する。

【教科書】

前期：『中国語はじめの一步』

後期：『中国語さらなる一步』

著者：伊景春・竹島毅

出版社：白水社

【参考文献】

授業の際に指定する予定。

科 目 名

中国語 I a

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|-------------------------|
| 02 | 通期 | 2単位 | ジョ 徐 ヨク 国 ユウ 玉 |

【講義概要・学習目標】

中国語は世界で最も会話人口の多い言語の一つです。中国の経済は急速に発展していて、現在の日本のビジネス界にとっても、中国語はますます重要な言語となっています。

この授業では、「話す・聞く・読む・書く」という四つの技能を丁寧に指導し、中国語の総合的なコミュニケーション能力を向上させることを目標としている。

【講義計画】

前期： 第1課～第10課

後期： 第11課～22課

【成績評価の方法】

出席状況、平素の小テストの評点と前期・後期の試験の評点で総合的に評価します。

【教科書】

徐国玉/山田忠司 著『基礎レッスン中国語』（同学社）

【参考文献】

『中日辞典』（小学館）

| 科目名 | | | |
|---------|------|-----|------------------------|
| 中国語 I a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
| 03 | 通期 | 2単位 | オウ 汪 ギョウ 暁 キョウ 京 |

【講義概要・学習目標】

「発音よければ、半ばよし」——この言い方は同じ漢字を使う日本人にとってなおさらの真実だ。初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。ピンイン（ローマ字による発音表記）を頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚えること。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。一年間の勉強を通して、「耳」と「口」が中国語に慣れるよう努力すること。使うテキストはCD付きで、ビデオも対応している。しかもアニメ化したビデオだ。また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介し、日本と中国の文化の違いが分かる。

【講義計画】

<前期> 導入
発音段階 ①ピンイン（ローマ字による発音表記）
②四声（中国語のイントネーション）
③総合練習
本文の勉強 第1課～第7課 2コマのペースで行う
（文法と言葉の使い方の説明、本文の説明、並びに朗読、翻訳、練習）
<後期> 本文 第8課～第16課 前期と同じ

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

「アニメ中国語 恋する莎莎（シャーシャ）」（CD付き）
（朝日出版社）

【参考文献】

「デイリーコンサイス中日辞典」
杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘 [共編]
（三省堂 1998）

| 科目名 | | | |
|---------|------|-----|-------------|
| 中国語 I b | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
| 01 | 通期 | 2単位 | サ 左 コウ 虹 |

【講義概要・学習目標】

中国語初習の学生に対して、基本的な構文を中心とした中国語の文法知識を学びながら、現代中国語の基礎作りをすることにある。前期は、発音を中心とする授業を予定している。後期は発音段階が終われば、文章で中国語の構造になれるながら、理解の基礎となる文法知識を増やしていく。後期は、発音基礎を固めながら、文法知識を増やしながらか、読解力をつけていくよう授業を進める。一年で、600語～700語前後マスターできるよう努力する。

【講義計画】

前期：発音練習に全力を注ぎ、中国語の音節の発音、ピンインの綴り方を徹底して訓練する。基本となる三大文法の学習を中心とした授業をする予定。
後期：前期で習得した内容を復習しながら、複雑な文型、補語、受身などの文法をさらに身につけるよう授業をする予定。

【成績評価の方法】

平常点（出席状況20%、宿題の提出など20%）、確認テスト（60%）などの総合点数で成績を評価する。

【教科書】

前期：『中国語はじめの一步』
後期：『中国語さらなる一步』

著者：伊景春・竹島毅
出版社：白水社

【参考文献】

授業の際に指定する予定。

科 目 名

中国語 I b

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|-----------------------------------|
| 02 | 通期 | 2単位 | 徐 国 玉 <small>ジョ コク ゴヨク</small> |

【講義概要・学習目標】

中国語は世界で最も会話人口の多い言語の一つです。中国の経済は急速に発展していて、現在の日本のビジネス界にとっても、中国語はますます重要な言語となっています。

この授業では、「話す・聞く・読む・書く」という四つの技能を丁寧に指導し、中国語の総合的なコミュニケーション能力を向上させることを目標としている。

【講義計画】

前期： 第1課～第10課

後期： 第11課～第22課

【成績評価の方法】

出席状況、平素の小テストの評点と前期、後期のテストの評点で総合的に評価します。

【教科書】

徐国玉/山田忠司 著『基礎レッスン中国語』

【参考文献】

『中日辞典』（小学館）

科 目 名

中国語 I b

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|------------------------------------|
| 03 | 通期 | 2単位 | 汪 暁 京 <small>オウ ゴヨク キョウ</small> |

【講義概要・学習目標】

「発音よければ、半ばよし」——この言い方は同じ漢字を使う日本人にとってなおさらの真実だ。初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。ピンイン（ローマ字による発音表記）を頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚えること。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。一年間の勉強を通して、「耳」と「口」が中国語に慣れるよう努力すること。

使うテキストはCD付きで、ビデオも対応している。しかもアニメ化したビデオだ。また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介し、日本と中国の文化の違いが分かる。

【講義計画】

<前期> 導入

- 発音段階 ①ピンイン（ローマ字による発音表記）
②四声（中国語のイントネーション）
③総合練習

本文の勉強 第1課～第7課 2コマ一課のペースで行う
（文法と言葉の使い方の説明、本文の説明、並びに朗読、翻訳、練習）

<後期> 本文 第8課～第16課 前期と同じ

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

「アニメ中国語 恋する莎莎（シャーシャ）」（CD付き）
（朝日出版社）

【参考文献】

「デイリーコンサイス中日辞典」
杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘 [共編]
（三省堂 1998）

| 科 目 名 | | | |
|--------|------|-----|-------------------|
| 中国語Ⅱ a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 2単位 | サ 左 コウ 虹 |

【講義概要・学習目標】

中国語を1年間勉強した学生を対象に、既に習得した現代中国語の基本構造をもとに、更に優しい文体に親しみながら、文法や語彙に関する知識をより広く、深く習うことを目的とする。なお言葉の背景に文化、思想があり、中国語を学ぶと同時に中国人のものの見方、考え方、風俗習慣などに触れ、異文化理解ということも欠かせない。1年間を通じて800語前後マスターできるように授業を進める。

【講義計画】

前期：1年次の学習内容を再点検しながら、新しい内容に入る。ビデオなどを通じて敬語、自己紹介、各場面の実用会話などの習得。

後期：前期で習得した内容をもとに、ビデオなどを通じて空間表現、補語による表現、形容詞の表現、動作の容態、比較、類似の表現などの学習。

前期はテキスト1、後期はテキスト2を目標に授業を進めていく。また月2回時事中国のゼミナールを行う。

【成績評価の方法】

平常点（出席状況20%、宿題の提出など20%）、確認テスト（60%）などの総合点数で成績を評価する。

【教科書】

前期：『理香と王麗 話す中国語1』
後期：『理香と王麗 話す中国語2』

著者：董 燕、遠藤 光
出版社：朝日出版社

【参考文献】

授業の際に指定する予定。

| 科 目 名 | | | |
|--------|------|-----|--------------------------------|
| 中国語Ⅱ a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 通期 | 2単位 | ジョ 徐 ヨク 国 ギョウ 玉 |

【講義概要・学習目標】

この授業では中国語の聞く力、話す力、理解力を一層高めることを目標とする。1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にちょっと難しい会話ができるように進めていく。

【講義計画】

【前期】 第1課～第7課
【後期】 第8課～第15課

【成績評価の方法】

出席状況、平素の小テストの評点と前期、後期のテストの評点で総合的に評価します。

【教科書】

『中国語実力アップ教本』（徐国玉／山田忠司 著 白帝社出版）

【参考文献】

『中日辞典』（小学館）

科 目 名

中国語Ⅱ a

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|------------------------|
| 03 | 通期 | 2単位 | オウ 汪 キョウ 暁 キョウ 京 |

【講義概要・学習目標】

中国語Ⅱの授業は一年目で習ったものを復習しながら、中国語の聞く、話す、読む、書く能力を向上することを目指す。テキストの本文は主に日常的な短い会話によって構成されている。重要な文法事項にもう一度触れて、理解を深める。そして、新しい文法や言葉の表現を勉強していく。二年目の勉強を通してもっと中国語に慣れるよう努力する。

教科書はCD付で、授業以外にも中国語を聞くことができ、練習や復習ができる。本文に対応する北京のあちこちでロケしたビデオもあるので、直感的に会話の内容を受け取ることができる。

また、授業内容に応じて中国の文化、社会、習慣などを紹介する。

【講義計画】

発音の確認と基本のまとめ

本文の学習：前期 1-10課

後期 11-20課

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

「話す中国語 北京篇2」(CD付)

董燕 / 遠藤 光暁 共著

朝日出版社

【参考文献】

「デイリーコンサイス中日辞典」

杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘 [共編]

(三省堂 1998)

【備考】

出席、積極的に授業に参加すること。

科 目 名

中国語Ⅱ b

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|-------------|
| 01 | 通期 | 2単位 | サ 左 コウ 虹 |

【講義概要・学習目標】

中国語を1年間勉強した学生を対象に、既に習得した現代中国語の基本構造をもとに、更に優しい文体に親しみながら、文法や語彙に関する知識をより広く、深く習うことを目的とする。なお言葉の背景に文化、思想があり、中国語を学ぶと同時に中国人のものの見方、考え方、風俗習慣などに触れ、異文化理解ということも欠かせない。1年間を通じて800語前後マスターできるように授業を進める。

【講義計画】

前期：1年次の学習内容を再点検しながら、新しい内容に入る。ビデオなどを通じて敬語、自己紹介、各場面の実用会話などの習得。

後期：前期で習得した内容をもとに、ビデオなどを通じて空間表現、補語による表現、形容詞の表現、動作の容態、比較、類似の表現などの学習。

前期はテキスト1、後期はテキスト2を目標に授業を進めていく。また月2回時事中国のゼミナールを行う。

【成績評価の方法】

平常点(出席状況20%、宿題の提出など20%)、確認テスト(60%)などの総合点数で成績を評価する。

【教科書】

前期：『理香と王麗 話す中国語1』

後期：『理香と王麗 話す中国語2』

著者：董 燕、遠藤 光

出版社：朝日出版社

【参考文献】

授業の際に指定する予定。

| 科目名 | | | |
|-------|------|-----|--|
| 中国語Ⅱb | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
| 02 | 通期 | 2単位 | 徐 ^{ジョ} 国 ^{コク} 玉 ^{ギョク} |

【講義概要・学習目標】

この授業では中国語の聞く力、話す力、理解力を一層高めることを目標とする。1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にちょっと難しい会話ができるように進めていく。

【講義計画】

【前期】 第1課～第7課

【後期】 第8課～第15課

【成績評価の方法】

出席状況、平素の小テストの評点と前期、後期のテストの評点で総合的に評価します。

【教科書】

『中国語実力アップ教本』（徐国玉／山田志司 著 白帝社出版）

【参考文献】

『中日辞典』（小学館）

| 科目名 | | | |
|-------|------|-----|---|
| 中国語Ⅱb | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担当者 |
| 03 | 通期 | 2単位 | 汪 ^{オウ} 曉 ^{ギョウ} 京 ^{キョウ} |

【講義概要・学習目標】

中国語Ⅱの授業は一年目で習ったものを復習しながら、中国語の聞く、話す、読む、書く能力を向上することを目指す。テキストの本文は主に日常的な短い会話によって構成されている。重要な文法事項にもう一度触れて、理解を深める。そして、新しい文法や言葉の表現を勉強していく。二年目の勉強を通してもっと中国語に慣れるよう努力する。

教科書はCD付で、授業以外にも中国語を聞くことができ、練習や復習ができる。本文に対応する北京のあちこちでロケしたビデオもあるので、直感的に会話の内容を受けることができる。

また、授業内容に応じて中国の文化、社会、習慣などを紹介する。

【講義計画】

発音の確認と基本のまとめ

本文の学習： 前期 1－10課

後期 11－20課

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

「話す中国語 北京篇2」（CD付）

董燕 / 遠藤 光暁 共著

朝日出版社

【参考文献】

「デイリーコンサイス中日辞典」

杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘 [共編]

(三省堂 1998)

【備考】

出席、積極的に授業に参加すること。

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|---------|
| 中国史 I | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 2単位 | 石 黒 亜 維 |

【講義概要・学習目標】

経済的な急成長をとげ、政治的にも影響力を拡大しつつある隣国中国。近年特に日中関係の重要性が様々な局面において議論されているが、歴史を繙けば、その関係の始まりは古代にまで遡り、また相互認識・交流のあり方も様々に変化してきた。現代中国および日中関係に対する理解を深めるためには、中国はもとより日中間のこの長い動的な歴史をまず理解する必要がある。本講義では古代中国から清末民初までの中国史を概観することによって、(1) 通史としての基本的な事象を把握し、(2) 具体的なトピックスを通して各時代の特徴を考察することを学習目標とする。中国に対する理解を深めるため、映像資料等も適宜活用していく。

【講義計画】

1. 「中国」とは何か
2. 古代文明と邑制国家
3. 皇帝支配の成立
4. 帝国の分裂と再統合
5. 東アジア世界の変容
6. 中華帝国の繁栄
7. 動揺する中華帝国
8. 中華復興の試み

【成績評価の方法】

筆記試験によるが、授業中の小レポート、出席状況も考慮する。

【教科書】

岸本美緒、浜口允子『東アジアの中の中国史』放送大学教育振興会、2003年

【参考文献】

尾形勇、岸本美緒編『中国史』山川出版、1998年

【備考】

<06~07生>
共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目

| 科 目 名 | | | |
|--------|------|-----|---------|
| 中国史 II | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期 | 2単位 | 石 黒 亜 維 |

【講義概要・学習目標】

19世紀半ば以来、中国は列強諸国からの支配を受け、特に日本との間で戦争を経験し、中華人民共和国の成立後も国際的国内的諸矛盾のなかにおかれ、中国にとって20世紀はまさに激動の世紀であった。本講義では中国の近現代史を東アジアを視野に入れた多角的にとりあげ、(1) 20世紀の中国社会はどのようなパラダイムで把握されてきたのか、(2) 日中関係はどのような変遷をたどったのかという問題に焦点をあて、グローバル化過程にある中国社会の変容を歴史的に検討することを学習目標とする。中国に対する理解を深めるため、映像資料等も適宜活用していく。

【講義計画】

1. 近代世界のなかの中国社会
2. 「西洋の衝撃」と中国の反応
3. 辛亥革命と中華民国の成立
4. 中国ナショナリズムの高揚
5. 第二次世界大戦と中国
6. 内戦から新中国誕生へ
7. 中華人民共和国の27年
8. 現代中国の新たな展開

【成績評価の方法】

筆記試験によるが、授業中の小レポート、出席状況も考慮する。

【教科書】

岸本美緒、浜口允子『東アジアの中の中国史』放送大学教育振興会、2003年

【参考文献】

池田誠、他編『図説中国近現代史（第2版）』法律文化社、2002年

【備考】

<06~07生>
共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目

た
行

| 科 目 名 | | | |
|---------------|------|-----|---------|
| 中国体験特講 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 2単位 | 上 野 勝 男 |

【講義概要・学習目標】

この授業は、いまや「世界の工場」から「世界の市場」に躍進する中国経済と社会、そして中国の人々に、さまざまなかたちで関わってこられた方々の経験と体験を、さまざまな角度から講義していただくものです。

日本からの企業進出に長年たずさわってこられた方、勇躍して中国にわたり苦労して事業を起こした方、日中の間を行き来し二つの経済と社会を冷静に見つめてこられた方、そして私たち桃山の先輩で中国ビジネスで活躍されている方など多彩な講師が登場します。

授業を通じて、中国の生き生きとした姿、中国という舞台でチャレンジする意味、中国・中国の人々とのように関わるべきか、などについて関心と理解を深めることを目標とします。

【講義計画】

最初の授業で、授業の計画と進行について説明します。

【成績評価の方法】

授業への出席と集中しての聴講。レポートなど課題の提出と評価などを総合して行います。

【参考文献】

随時示します。

【備考】

インテグレーション科目

| 科 目 名 | | | |
|-----------------|------|-----|---------|
| 中国の自然と地域 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期 | 2単位 | 松 崎 征 弘 |

【講義概要・学習目標】

1) 春季同様、長年来、我国と中国との経済交流分野での豊富な経験を持ち日々、ナマの中国に接触している立場から、徹底的に実務的、実際の講義を進める。

従来、我国の中国問題の視点として政治、文化的側面からのアプローチが多いことから現実の中国の自然、地理、地域環境、条件は我国では想像しがたいところであった。本講義では中国の当該分野での多様性や複雑性、我国を含む海外との異質性を理解した上で、その条件下で生産活動を続けている中国の実情に迫る。

とりわけ順調な経済発展を実現している中国は膨大な人口を抱え、広大な国土を併せ持つ反面、「脆弱な生態環境、不十分な環境容量そして不足している資源量」という面を併せ持つ。

この条件下で高度な経済発展は中国の生態環境の破壊と環境破壊の頻発につながっており、国際的にも議論されていることから、昨年からはスタートした第十一次五カ年計画では省エネと環境保護が重点政策の一つに据えられている。

中国の環境問題を博士課程での研究テーマとしている講師の立場から、グローバルな環境問題に関連付けた中国の環境問題についても深く論じているところである。当然、中国独特な問題点と共に環境グローバルネットワークの観点からも追求し、IT産業、バイオとならび21世紀の成長産業分野となるであろう中国の環境問題を理解する。

2) 実戦コースという観点から、春季同様に幅広く受講生の将来設計への即戦力となる知識と能力を取得することを目標とする。とりわけ地域特性が顕著な中国大陸だけでなく、特別行政区として大きな存在である香港、マカオそして政治的、民族的に微妙な関係にある台湾をも含む全体像の把握を目指す。

【講義計画】

15回を大きく3段階に分ける。

1) 中国大陸の地理的構造及び居住環境と民族性や産業構造の差異について

我国の26倍の国土面積であるが大まかに4段階に地理的分類ができ、その各段階での自然、地理的特徴を把握する。

同時に、有名な黒河—騰衝線を東西から理解し、その地域産業の違いや人口構成の違いひいては中西部発展の可能性についても追求する。

2) 第十一次五カ年計画に基づく中国の環境問題の実態理解とその解決策について

環境問題の総合商社或いは公害の百貨店、と揶揄されている経済大国中国には単なる産業公害、生活公害だけでなく連続と続く自然環境の破壊、生態環境の破壊が顕在化していることを先ず把握した上で、政策的、財政的或いは国際協力受容による解決策を学習する。

当然、グローバルな環境問題は一国だけで野解決は不可能であり国際的協調による解決を目指すところであるが、その観点からの考察も行う。

3) 地域特性や自然・地理的多様性の中で中国人がいかにか生活し、その医療、教育、習俗、風習、食生活などについて学習することで外国としての中国を理解する。

【成績評価の方法】

最終講義でペーパーテストを行う

【教科書】

- 1) 「中国データハンドブック2007」財団法人日中経済協会
- 2) 「現代中国ビジネス論」世界思想社

【参考文献】

- 1) 「現代中国経済の分析」世界思想社
- 2) 「現代中国の民族と経済」同上

3) 「中国年鑑」創土社

【備考】

- 1) 毎回、適宜、コピー資料を配布
- 2) 中国人留学生には日本語と英語のマスターを、日本人学生には中国語と他の外国語のマスターすることを望む
- 3) 邦字紙を毎日読むこと

【備考】

<06～07生>
共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目

科 目 名

中国貿易投資事情

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|---------|
| | 春学期 | 2単位 | 上 野 勝 男 |

【講義概要・学習目標】

この科目は、液晶ディスプレイなどの独自技術で躍進を続けるシャープ株式会社の全面的な協力をえておこなうものです。

授業では、(1) シャープのこれまでの歩みから経営の理念・戦略を多角的に講義します。それと同時に、(2) シャープは、経済の台頭著しい中国に早くから生産拠点を構え、事業を発展させています。この中国戦略について、中国に進出する際にクリアしなければならなかった問題を、具体的な苦勞のエピソードをまじえながらわかりやすく述べていく予定です。

授業を通じて、中国経済・貿易投資の現状を理解すると共に、日本企業の対中国戦略について、今後の展望について関心と理解を深めることを目標とします。中国経済に関心のある諸君はもちろん、シャープやエレクトロニクス産業に興味をもつ諸君にも多に役立つはずで

【講義計画】

最初の授業において、講義の計画と進行について説明します。講義の大まかな予定は以下の通りですが、場合により変更などがあります。

1. 会社の沿革と経営理念・基本戦略
2. 中国進出の背景および進出地を選択した背景と問題点
3. 工場建設にともなう中国固有の問題点
4. 職員の確保と教育
5. 業務の概要
6. 会計・法律上の問題点と会社管理
7. 日中の棲み分けおよび今後の展開について

【成績評価の方法】

授業への出席と集中、課題の作成などを総合的に評価して行います。

【参考文献】

随時示します。

【備考】

<06生～07生>
共通自由科目として、E生対象外
E生は学科教育科目
インテグレーション科目

た
行

| 科 目 名 | | | |
|--------------|-------|-----|---------|
| 中小企業論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期集中 | 4単位 | 義 永 忠 一 |

【講義概要・学習目標】

現状における中小企業に関する様々な問題を追いながら、特に製造業を中心に取り上げ講義を行います。これまで中小企業論が注目してきた「問題性」の認識と現在の課題を広く把握することを学習の目標とします。また講義において注目する中小企業の現状を、多角的に分析することができるようになることを到達目標としたい。

【講義計画】

- ・第1週 「中小企業論」とは何か
- ・第2週 中小企業を捉える視点
- ・第3週 変化する中小企業
- ・第4週 中小企業をめぐる環境の変化－情報化（1）
- ・第5週 中小企業をめぐる環境の変化－情報化（2）
- ・第6週 中小企業をめぐる環境の変化－グローバル化（1）
- ・第7週 中小企業をめぐる環境の変化－グローバル化（2）
- ・第8週 環境変化をどのように捉えるのか（小括）
- ・第9週 産業集積への注目
- ・第10週 産業集積についての研究
- ・第11週 産業集積に関する事例（1）東大阪地域
- ・第12週 産業集積に関する事例（2）その他の地域
- ・第13週 中小企業政策の現状
- ・第14週 まとめ

教科書以外に、ビデオ、独自資料を使った講義も行います。小テスト実施の関係から、講義計画の進展が変更される場合があります。

【成績評価の方法】

毎講義開始15分間、当日の日本経済新聞のチェックを行います。当日の日本経済新聞朝刊を購入して講義に臨んでください。不定期に、この新聞チェックに関する小テストを実施します。小テスト（40点）と学期末試験（60点）で評価します。

【教科書】

植田浩史編著『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣, 2006年.

【参考文献】

上田達三監修 田中充・佐竹隆幸編著『中小企業論の新展開』八千代出版, 2000年.
 植田浩史編『産業集積と中小企業』創風社, 2000年.
 植田浩史編『「縮小」時代の産業集積』創風社, 2004年.

| 科 目 名 | | | |
|----------------|------|-----|-------------------|
| 朝鮮語 I a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 02 | 通期 | 2単位 | ユン ヨン ファ 尹 英 和 |

【講義概要・学習目標】

日常生活でよく使う挨拶表現を中心に韓国語を勉強します。自己紹介・買い物などの場面で実際に使える韓国語を覚えていきます。また、文法においてよく似ている日本語と韓国語ですが、発音においてはその違いが目立ちます。韓国語の発音を日本語の発音と比較しながら繰り返し練習します。

【講義計画】

前期 : 1課～12課
 文字と発音、簡単な挨拶表現を勉強します。
 後期 : 13課～18課
 自己紹介および簡単な会話が話せる。

【成績評価の方法】

出席状況・授業態度・期末試験を総合的に評価します

【教科書】

長谷川由紀子「コミュニケーション韓国語（会話編Ⅰ）」（白帝社）

科 目 名

朝鮮語 I b

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|----------|------|-----|---------|
| 01 02 | 通期 | 2単位 | 徳 成 外志子 |

【講義概要・学習目標】

朝鮮半島の文字「ハングル」は、わずか24の音素文字（基本母音字10、基本子音字14）の組み合わせによってできていて、とても合理的で平易です。また、「てにをは」があることや、語順などの文法事項も日本語に非常によく似ていて、日本人にとって最も学びやすい外国語です。

この授業では、朝鮮語を初めて学ぶ人を対象に、朝鮮語の文字・発音・基礎的文法事項を初歩から学習し、一年間で基本的な文法事項をマスターします。辞書を引きながら朝鮮語で書かれた文章を読解できるようにし、簡単な作文や会話も行えるようにします。また折に触れて、朝鮮半島の社会や文化等に対しても理解を深めるようにします。

授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、北朝鮮で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきます。

【講義計画】

- 前期：1. 授業の進め方などガイダンス、朝鮮語の特徴
 2. 文字・発音・辞書の引き方・簡単なあいさつなど
 (1課～4課)
 3. テキストに沿って5課～7課
 ハムニダ体（上称形）名詞文、名詞文の否定と尊敬、
 ハムニダ体用言文、用言文の否定など
- 後期：1. テキストに沿って8課～12課
 数詞・疑問詞の使い方、尊敬形、
 連用形・ヘヨ体（略待上称形）、
 ヘヨ体の尊敬形、過去形など
 2. 簡単な読み物の副教材や、歌、ビデオ等

【成績評価の方法】

前期・後期末テスト（60%）、平常の出席、小テスト、宿題、発音・聞き取りのチェックなど（40%）を総合的に評価します。語学は特に、出席と普段の授業の予習・復習が大切です。

【教科書】

生越直樹・曹喜澈『ことばの架け橋』白帝社

【参考文献】

油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館。『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館。『パスポート朝鮮語小辞典』白水社。その他、授業で適宜紹介します。

科 目 名

朝鮮語 II a

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|------|-----|-------------------|
| | 通期 | 2単位 | ユン ヨン ファ 尹 英 和 |

【講義概要・学習目標】

この授業では初級レベルの完成を目指します。「朝鮮語 I」で学んだ基本的な表現を応用し、一歩進んだ会話表現を試みます。練習のため、課題も多くなると思います。

【講義計画】

前期：1～15課
 後期：16～30課

【成績評価の方法】

出席状況及び期末テストを総合的に評価します。

【教科書】

入佐信宏・金炫辰（2005）『よくわかる韓国語』白帝社

| 科 目 名 | | | |
|--------------|------|-----|---------|
| 朝鮮語Ⅱb | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 2単位 | 徳 成 外志子 |

【講義概要・学習目標】

1年次に学習した内容を定着させながら、さらに上の文法事項を系統的に学習し、語彙力・慣用表現を身につけていきます。韓国語の読解力を向上させることを主としますが、すらすら読めるよう発音も重視し、作文や会話も取り入れ総合的に韓国語能力を向上させていきます。また折に触れて、朝鮮半島の社会や文化等に対しても理解を深めるようにします。

授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、北朝鮮で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきます。

【講義計画】

前期：1. 授業の進め方などガイダンス

2. 1年次の復習（ハムニダ体、ヘヨ体など）

3. テキストに沿って12課～15課を学習

過去形、連体形、進行形、未来・意志形、
リウル語幹など

4. ニュース・読み物の副教材や、歌、ビデオ等

後期：1. テキストに沿って16課～20課を学習

変則用言、動作の結果状態、可能・不可能、希望、仮定、
その他の補助用言、慣用句など

2. ニュース・読み物の副教材や、歌、ビデオ等

【成績評価の方法】

前期・後期末テスト（60%）、平常の出席、小テスト、宿題、発音・聞き取りのチェックなど（40%）を総合的に評価します。語学は特に、出席と普段の授業の予習・復習が大切です。

【教科書】

生越直樹・曹喜澈『ことばの架け橋』白帝社

【参考文献】

油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館。『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館。その他の辞書・参考文献等は授業で適宜紹介します。

| 科 目 名 | | | |
|--------------|------|-----|-------|
| 地理学概論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 4単位 | 矢 嶋 巖 |

【講義概要・学習目標】

ある地域のことを知る必要が生じた時に、その地域の自然環境や歴史的变化を踏まえてさまざまな人間活動を把握することにより、その地域の実像により一層迫ることができる。地理学はこうした視点で地域について考えていく学問である。

本講義では、この地理学の視点に基づき、春学期は、気候、地形、生物、水といった自然環境と人々の生活との関わりについて、具体的な事例を通じて考える。秋学期は、激しい変化を遂げた日本社会について、食料生産、工業、都市化、小売業から考えていく。さらに地域研究として、過疎地域に位置づけられる兵庫県北部の但馬地方について多面的に理解することを試みる。また、日本との関わりが深いアメリカ合衆国のハワイを取りあげ、日本との関係性にも触れながら、ハワイの成り立ちを講じる。

これらを通じて、受講するみなさんが日本社会の変貌について理解を深め、かつ地域理解に関心を持つことを期待する。ただし、時事的な話題に変更することがある。

【講義計画】

1. 日本の気候と都市域における気候変化

2. 近畿地方の地形と災害

3. 砂浜の危機

4. 拡大する竹林

5. 京都盆地の水文環境と歴史地理

6. 日本の食料生産と食生活

7. 阪神工業地帯の形成と変容

8. 京阪神地方の都市化と鉄道・水道

9. 日本の小売業の変容

10. 但馬地方の自然環境と生活

11. ハワイの自然・産業・社会・文化

【成績評価の方法】

定期期間内試験と、時々実施する小試験の成績で評価する。なお、本講義は教職課程の履修科目としても位置づけられているため、成績評価は厳しく行う。そのつもりで臨みたい。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

池田 碩編著『地形と人間』古今書院、2005年

浮田典良『地理学入門新訂版』原書房、2003年

野尻 亘・古田 昇『世界市民の地理学』晃洋書房、2006年

橋本征治編『人文地理の広場』原書房、2004年

その他、講義時に適宜指示する。

科 目 名

地理学概論

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|-------|-----|-------|
| 02 | 秋学期集中 | 4単位 | 野 尻 亘 |

【講義概要・学習目標】

地理学は具体的な「地域」、抽象的な「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象とし、固有の理論や法則を持っている。この授業では人文地理学や自然地理学の基礎について、具体的に学習する。教員採用試験の受験対策もあわせて行う。

【講義計画】

全28章におよぶテキストにおいては、全世界・日本の自然環境・景観・土地利用について概説する。またフンボルト・リッターの古典理論から、グレゴリー・セイアー・ハーヴェイなど、構造主義・ポストモダン・建造環境論について最新の地理学の学説を紹介する。さらにチューネン・ウエーバーの古典的な立地論からクルーグマンの最先端の経済立地理論までおよび、古典的なシカゴ学派から新都市社会学に至る都市社会空間理論までの発展を概説する。要するに、中学・高校の教職・地理教育に関連する基本事項から、現代思想の動向をふまえた地理学の最新理論について学習を行う。

【成績評価の方法】

定期期間内試験（期末テスト）で、客観テストの得点のみで成績をつけます。教職に関連する科目なので、内容が幅広く、かつ安易に単位を出せない事情を理解して、注意して履修してください。

【教科書】

野尻亘・古田昇『世界市民の地理学』晃洋書房

【参考文献】

地理学理論に関する文献については授業中に適時紹介する。また中学・高校時に使用した「地図帳」が家に残っていれば、授業に持って来ていただければ幸いです。

科 目 名

ディスカッション法

| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
|-----|-------|-----|--------------------------------|
| | 秋学期集中 | 4単位 | ラウール セルバンテス Raoul Cervantes |

【講義概要・学習目標】

This is a class for advanced speakers of English. In this class we will watch movies and discuss each scene of the movie. All of the movies are in English, with English subtitles. Students will be given a list of questions for each class to talk about the film. The movies we discuss will cover social and psychological themes and problems. Students must come to class and talk about the movies in English.

【講義計画】

We will discuss three to four movies if possible. I will decide the movies during the semester.

【成績評価の方法】

Students will be graded on their class participation. Students must speak English in this class to pass this class.

【教科書】

no text

た
行

| 科 目 名 | | | |
|--------|------|-----|---------|
| ディベート法 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 萬 戸 克 憲 |

【講義概要・学習目標】

与えられた課題について、①論理的に思考して自分の意見として発表し、②相手の論拠の矛盾を見極め ③その場で反駁する。このようなことなどが英語でできるようになるのが目標である。

課題についての調査や発表の準備などで、毎時間積極的な取り組みが必要である。かなりきつい授業であるので、覚悟して受講してほしい。また、無断で欠席するとチームのメンバーに迷惑をかけるので、絶対に休まないように。

この授業を通じて、英語で、自分の意見を述べ、相手に反駁し、それらを組み入れてさらにまとめて自説を強調できるようになることを期待している。

【講義計画】

1. 前、後期を通じて、毎時間数名に英語でのスピーチを課す
2. 前期には、ディベートの基本形式を学習しながら、School dress code, Daylight saving time, Different surnames in marriage, Death penaltyなどについて、Constructive Speech が出来ることが目標。
3. 後期には、The Affirmative Action, Same-sex marriage, English in primary school, Euthanasiaなどを扱いながら、Cross-examination, Rebuttal and Summary まで進める。

【成績評価の方法】

ディベートへの参加、各自4～5回の英語でのスピーチ、および期末考査

【教科書】

Yuko Matsumura et al. Enjoy Debating. Eichosha

【参考文献】

Nishimoto et al. Both Sides Now. Seibido

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| データベース実習 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 春学期 | 2単位 | 初 瀬 慎 一 |

【講義概要・学習目標】

本講座では、Microsoft Accessを用いてデータベースを作成し、リレーショナルデータベース全般の基礎的概念、構築・運用の実際について学ぶ。次いでサーバーに構築されたRDBMS環境を利用して、SQLを用いてのデータ検索を行う。

さらにWEBサーバーと連携して、簡易データベース機能を持つホームページを作成する。

【講義計画】

1. Microsoft Accessの基本操作
2. データ型の決定、入力・出力・検索フォーマットの決定
3. データ入力
Excelなどからのインポートと、トランザクション処理
4. データベース検索
5. データファイルの追加とリレーショナル処理
6. PostgreSQLの基本操作
7. SQL言語によるデータ検索
8. WWWサーバーとCGIによる簡易データベースの作成

【成績評価の方法】

提出課題の評価を中心に、試験との総合評価を行う。出席は授業日数の3分の2以上であること。

【教科書】

開講時に指示する。

| 科 目 名 | | | |
|-------|------|-----|---------|
| 哲学 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 4単位 | 木 下 昌 巳 |

【講義概要・学習目標】

哲学とは、世界と人間について、常識を突き抜け、その究極的なあり方を認識しようとする学問である。本講義では、古代ギリシアから現代に至るまでの西洋の主要な哲学者たちを取り上げ、彼らの思想を学び、哲学という学問が取り組もうとする問題とそのアプローチの仕方を理解することを目指す。哲学という学問は、本質的に難解であり、学ぶ側に哲学の問題に対する積極的な関心がなければ、その理解は難しいし、その意義を見出すことはできない。世界と人間について深く考え、その本質を知ることに関心のある人の受講を希望する。

【講義計画】

- 1、哲学の誕生 古代ギリシアの哲学
ソクラテス、プラトン、アリストテレス
- 2、哲学の時代
大陸合理論、イギリス経験論、カント、ヘーゲル
- 3、哲学の岐路
ニーチェ、フロイト、西田幾多郎

それぞれの思想家について、3回程度の講義を行う。

【成績評価の方法】

学年末テスト80点
授業中に提出する小レポート20点

【教科書】

初回授業に指示する予定。

【参考文献】

授業中に必要に応じて指示する。

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| ドイツ語 I a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 02 | 通期 | 2単位 | 田 中 秀 穂 |

【講義概要・学習目標】

初めてドイツ語を学ぶ学生を対象として、初級文法の講義と演習を行なう。アルファベットや発音から始めて、基本的な文法事項を習得していく。

ドイツ語には、主語によって動詞の形が変わる「人称変化」や、名詞や冠詞などが文中での役割によって変化する「格変化」、独特の語の並べ方など、さまざまな興味深い特徴がある。このようなドイツ語の表現の基礎を、練習問題に取り組むことによって確実に身につけてもらいたい。

【講義計画】

【前期】

0. つづり字の読み方と発音
1. 動詞の人称変化、文の作り方
2. 文法上の性と格
3. 冠詞類
4. 不規則変化動詞、命令形
5. 前置詞の格支配
6. 複数形
7. 話法の助動詞、未来形

【後期】

8. 形容詞の格変化、人称代名詞
9. 分離動詞、再帰代名詞、再帰動詞
10. zu不定詞
11. 三基本形、過去人称変化、接続詞
12. 現在完了形、過去完了形
13. 受動形
14. 比較表現
15. 関係文
16. 接続法

【成績評価の方法】

前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点（授業への積極的な参加）も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。

【教科書】

在 関 進：『新生ドイツ語文法 V4』（朝日出版社）
（ISBN978-4-255-25298-8）

【参考文献】

独和辞典は、初回にいくつか紹介するので、随意に選んで1冊購入すること。

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| ドイツ語 I b | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 通期 | 2単位 | 村 田 佳 隆 |

【講義概要・学習目標】

ドイツ語学習の土台を作ることがこの授業の目標である。発音の練習をまずたっぷりこなす。最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。とにかく出席して、授業中に頑張ること。

【講義計画】

テキストに従う。

【成績評価の方法】

前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。

【教科書】

小野、中川、西巻、『ドイツ語 グラマー』 朝日出版

| 科 目 名 | | | |
|----------|------|-----|---------|
| ドイツ語 I b | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 02 | 通期 | 2単位 | 村 田 佳 隆 |

【講義概要・学習目標】

ドイツ語学習の土台を作ることがこの授業の目標である。発音の練習をまずたっぷりこなす。最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。とにかく出席して、授業中に頑張ること。

【講義計画】

テキストに従う。

【成績評価の方法】

前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。

【教科書】

西村、ペトリック、『行ってみたいドイツ』 郁文堂

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|---------|
| ドイツ語Ⅱ a | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 2単位 | 高 田 里恵子 |

【講義概要・学習目標】

この授業は、ごく簡単なドイツ語の文章を作成し、ごく簡単なドイツ語の文章を、声を出して読むことで、会話力を伸ばすことを目標とする。まず、実行してもらいたいのは、大きな声でハキハキとドイツ語または日本語を話すという訓練である。

授業には、配布したプリントの他、独和辞典と、初級の授業で使用した文法の教科書（何でもよい）をもってくること。

【講義計画】

1. 初級文法を思い出す
2. さまざまな動詞や単語に触れてみよう
3. 日常生活のなかの助動詞に慣れよう
4. 接続法を使いこなしてみよう
5. 数字表現を練習しよう

【成績評価の方法】

春学期と秋学期の最後に試験を行なう。成績（可否）は、Ⅱ bの担当教員と相談のうえ決定される。また平常点も重視するが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味している。授業中の態度や勉強意欲を正當に評価できるよう、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりである。

【教科書】

教科書は使用しない。プリントやコピーを配布するので失わないこと。

【参考文献】

授業中に指示する。

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|---------|
| ドイツ語Ⅱ b | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 通期 | 2単位 | 田 中 秀 穂 |

【講義概要・学習目標】

ドイツ人と日本人のものの見方や考え方の違いをテーマとして書かれたテキストを読む。また、それに関してドイツ語で表現したり聞き取ったりする練習を行なう。これにより、ドイツ語Ⅰ（初級）で学習した知識を確認し、さらにドイツ語の能力を高めることを目標とする。

【講義計画】

以下のようなテーマで、テキストの聴取、読解、練習問題に取り組む。

1. パーティーを開くのは祝ってもらう人！
2. 20歳を過ぎれば親もとを離れる！
3. 教室で手をあげないと減点！
4. 2回不合格だと失格！
5. 事故死傷者の氏名公表はご法度！
6. 終点を知らないと電車に乗れない！
7. duは必ずしも「あなた」を意味しない！
8. コミュニケーションの決め手は、相手の名前を覚えること
9. 人間は「動物」ではない！
10. 法は力なり！

【成績評価の方法】

前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点（授業への積極的な参加）も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。

【教科書】

大谷弘道：『CD付き ドイツ人を知る9章+1』（三修社）
（ISBN978-4-384-13082-9 C1084）

た
行

| 科 目 名 | | | |
|---------------|-------|-----|-----------|
| ドイツ文化論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 高 田 里 恵 子 |

【講義概要・学習目標】

この講義では、1871年のドイツ帝国の成立から、1945年の第三帝国（ナチス・ドイツ）の崩壊までの文化を扱う。そのさい、導きの手となるのが、上級学校制度・教育思想の変遷であり、今回は、この時期に書かれたいくつかの学校小説と戦争小説を取りあげる。とりわけ、1900年前後のドイツ帝国、およびオーストリア・ハンガリー二重帝国の教育言説が講義の中心となる。

【講義計画】

1. 学校制度から見るドイツ帝国の横顔
教養市民層と思春期の誕生
世紀転換期における男性性のゆらぎ
2. 学校とファシズム
幼年学校と男性同盟の思想
ギムナージウム教育の問題性
3. 学校と軍隊
第一次大戦の敗北とナチズム
『ドイツ戦歿学生の手紙』と『きけわだつみのこえ』

【成績評価の方法】

最後に期末試験を行なう。試験では、この授業で話されたことが理解できているかどうかを見られるような問題を出すので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。

【教科書】

教科書は使わない。

【参考文献】

1. 野田宣雄『ドイツ教養市民層の歴史』（講談社学術文庫）
2. ジョージ・モッセ『英霊 創られた世界大戦の記憶』（柏書房）
そのほか、授業中に指示する。

| 科 目 名 | | | |
|--------------|-------|-----|---------|
| 統計学総論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 井 田 憲 計 |

【講義概要・学習目標】

まず記述統計（＝統計データの整理と記述の方法）の知識を身に付け、さらに推測統計（＝確率の考えをもとに、標本から母集団の特性を推論する方法）の基礎的な考え方の把握を目的とする。

実際にパソコンを使って教科書の例題を計算するなどの課題にも挑戦する予定だが、決して難しい作業ではない。

「統計的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できっと役に立つものであろう。

【講義計画】

1. 代表値、度数分布
2. 確率分布と密度関数
3. 点推定
4. 平均の区間推定
5. 比較の区間推定
6. 検定の基本的な考え方
7. 平均の差の検定
8. 比率の差の検定
9. 多次元データの記述
10. クロス集計・相関係数
11. (回帰分析その1) 最小2乗法
12. (回帰分析その2) 区間推計と仮説検定
13. 順位相関係数
14. 分割表の検定

【成績評価の方法】

出席、
講義時間中の小レポート（不定期）、
講義時間外の間レポート（1回程度）、
期末試験、
を総合して評価を行う。

【教科書】

小島寛之著『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社
（¥1,800＋税）

【参考文献】

郡山彬+和泉澤正隆=著『統計・確率のしくみ（入門ビジュアルサイエンス）』日本実業出版社（税込¥1,365）

| 科 目 名 | | | |
|------------|-------|-----|---------|
| 統語論 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期集中 | 4単位 | 清 水 真 一 |

【講義概要・学習目標】

本講では、生成文法の統語論における基本的な概念と、議論の組み立て方の基本を学ぶことをその目的の中心に据えたい。最初に、これまで受講生諸君の学習してきた英語の基本的な動詞（あるいは述語）をその補文構造とのかかわりにおいて観察し、有意義なデータパラダイムとして整理し直してみたい。続いて、いくつかの英語の基本的な構文（いわゆる「重要構文」と呼ばれているもの）を整理し、生成文法の観点からもう一度それらをながめ直してみたい。とりわけ、動詞の定形節・非定形節、能動文と受身文、疑問文、名詞句の解釈などを扱うことになる。これらのことがらを考察するなかで、説明のための具体的な道具立てとその働きとにかかわる基本的な概念・仕組みについて学びを深めてみたい。とくに出席を重視する。

【講義計画】

1. 主題構造
2. 句構造
3. 格
4. 照応関係
5. 非定形節
6. 移動
7. まとめ

【成績評価の方法】

原則として、出席、小テスト、試験に基づき総合的に評価する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考文献】

授業中に随時、指示する。

| 科 目 名 | | | |
|--------------|------|-----|---------|
| 倒産処理法 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期 | 2単位 | 本 間 法 之 |

【講義概要・学習目標】

倒産処理法とは、破産法、民事再生法、会社更生法、会社法上の特別清算の総称です。「倒産法」とも呼ばれています。倒産は、まさに法律問題の《るつば》であり、種々の法領域に関わる問題の処理が求められます。言い換えれば、実体法と手続法が激しく交錯する場が倒産処理法です。本講義では、破産法、民事再生法を中心に、倒産処理法の基礎を概説します。倒産処理法は、「民法・商法→民事訴訟法→民事執行法」と続く民事法の流れの、いわば最後に位置するものということができます。本講義を受講する学生諸君には、少なくとも民法・商法（会社法）、並びに、春学期開講の民事訴訟法、及び秋学期開講の民事執行法を併せて受講することが望まれます。

【講義計画】

- (1) 個別執行（民事執行）と包括執行（倒産処理）
- (2) 倒産法制と私的整理
- (3) 倒産処理手続の開始
- (4) 倒産処理手続における債権の処遇
- (5) 倒産処理と担保権
- (6) 倒産処理手続と倒産債務者をめぐる法律関係
- (7) 否認権
- (8) 倒産処理手続の終了
- (9) 消費者の倒産手続
- (10) 国際倒産

以上の項目につき、破産法・民事再生法・会社更生法を中心に講述します。

【成績評価の方法】

- (1) 平素の勉学状況（講義への出席・受講態度など）と、
- (2) 講義の際に適宜実施する試験の成績とを、総合的に評価して決定します。特に平素の勉学状況を重視します。
- (3) 講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処します。

【教科書】

講義では、レジュメを配布する予定です。講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。「六法」の種類は問いませんが、「破産規則」、「民事再生規則」や、会社更生規則」など、参照が必要な規則類が掲載されている六法を用意して下さい。

【参考文献】

講義の際に、適宜紹介します。

た
行

| 科 目 名 | | | |
|---------|------|-----|---------|
| 道徳教育の研究 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| | 秋学期 | 2単位 | 徳 永 正 直 |

【講義概要・学習目標】

子どもたちの問題行動の質的变化に対応すべく、道徳教育の充実・強化が求められている。しかし、「道徳」授業の評判はあまりよくない。そこで、「道徳」授業改善のためのさまざまな実践が試みられている。コールバーグ理論に基づくモラルジレンマ授業やロールプレイング授業などである。さまざまな「道徳」授業の意義と問題点を、教育的タクト論の視点から検討する。あわせて、価値多様化時代における道徳教育の課題を、学習指導要領との関連で考察する。

【講義計画】

1. 「教育」の重要性と危険性
2. 「教育」の危険性—「道徳」授業批判
3. 子どもの問題行動の変遷と背景
4. 賞罰問題を考える。
5. アリス・ミラーの「反教育学」
6. 道徳教育の歴史①
7. 道徳教育の歴史②
8. 学習指導要領の解説と道徳教育の原理
9. 道徳教育の課題—慣習的道德から反省的道德へ
10. 生命倫理学と環境倫理学
11. ディベートによる生命倫理の授業
12. コールバーグの道徳性発達理論
13. モラルジレンマ授業の意義と問題点
14. ロールプレイング授業
15. 教育的タクトの視点から「道徳」授業を捉えなおす。

【成績評価の方法】

定期試験（80%）、出席状況および授業中の小レポート（20%）で総合的に評価する。

【教科書】

徳永・宮嶋・堤・林・榊原著『道徳教育論—対話による対話への教育』（ナカニシヤ出版、2006年）

【参考文献】

徳永・宮嶋・堤著『対話への道徳教育』（ナカニシヤ出版、1997年）
徳永正直著『教育的タクト論—実践的教育学の鍵概念』（ナカニシヤ出版、2004年）

| 科 目 名 | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| 東洋史 | | | |
| クラス | 講義区分 | 単位数 | 担 当 者 |
| 01 | 春学期集中 | 4単位 | 串 田 久 治 |

【講義概要・学習目標】

「以史為鑑 察往知来」—歴史から何を学ぶか

今に伝わる多くの歴史書のひとつに、宋の司馬光（しばこう）が著した歴史書『資治通鑑（しちつがん）』がある。これは読んで字のごとく、過去の歴史を来るべき時代の治に資し、人間の鑑（かがみ）とするという歴史観である。ただ、歴史を鑑戒とする考え方は司馬光だけのものではなく、中国では古代から伝統的に受け継がれたものである。今も「史を以て鑑と為し、往を察して来を知る（人間の歴史を鑑とし、過去の過ちを察して未来の行方を知る）」精神は健在である。歴史に教訓が記録されない時、そして歴史に学ぶことができない時、歴史は繰り返される。

以上は拙著『儒教の知恵』の一節です。本講義は中国の歴史書に記録される史料を通して、歴史を記録することの意味を、そして歴史を学ぶことの意味を考えながら今日の日本や世界を考え、二十一世紀の世界を模索するものです。

【講義計画】

第一部 歴史を読み解く

- 1 History と 史
- 2 経と緯
- 3 春秋・構札・乗
- 4 陰陽思想
- 5 五行思想
- 6 干支

第二部 歴史を記録することの意味

- 1 直筆
- 2 神格化
- 3 天の思想：革命・天道・災異
- 4 華夷思想

第三部 原則と例外

- 1 名と実
- 2 理念と現実
- 3 経と権

【成績評価の方法】

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

【教科書】

串田久治著『儒教の知恵—矛盾の中に生きる』（中公新書） 760円

【参考文献】

宮崎市定著『中国に学ぶ』（中公文庫）
市井三郎著『歴史の進歩とは何か』（岩波新書）
串田久治著『中国古代の「謡」と「予言」』（創文社）
串田久治著『ゆっくり楽に生きる漢詩の知恵』（学研）
串田久治著『天安門落書』（講談社現代新書）
今村仁司著『近代性の構造』（講談社選書メチエ）
武田泰淳著『司馬遷—史記の世界』（講談社学術文庫）
加地伸行著『史記—司馬遷の世界』（講談社現代新書）
KUSHIDA' S WEB SITE

<http://www1.odn.ne.jp/kushida>